

No. 85 >>> Contents

●一般財団法人大日本蚕糸会から	
次期中期事業計画の骨子について	1
良質繭の生産に向けた蚕病被害防止対策について	6
「カイコを育てよう！2025」のお知らせ	
ー全国蚕糸関係博物館横断キャンペーンー	
・・・・・・・・・・・・・・・・・・一般財団法人大日本蚕糸会	7
●トピックス	
講演会「匠の技、オール日本で支える」を開催	
・・・・・・・・・・・・・・・・・・一般財団法人大日本蚕糸会 蚕糸絹業振興部	8
「国産生糸展示・商談会」を開催して	
・・・・・・・・・・・・・・・・・・一般財団法人大日本蚕糸会 蚕糸絹業振興部	9
「絹が生まれる場所」展	10
●研究・技術情報	
国際養蚕委員会の活動から	
・・・・・・・・・・・・・・・・ 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構	
生物機能利用研究部門絹糸昆虫高度利用研究領域カイコ基盤技術開発グループ	
グループ長 富田秀一郎	11
マイクロX線CT像は学生実験の解剖の教材となり得るか？	
・・・ 摂南大学農学部農業生産学科 応用昆虫学研究室 准教授 藤井 毅	13
暑さ・濃病対策を万全に	
・・・・・・・・ 一般財団法人大日本蚕糸会 蚕糸科学技術研究所 野澤瑞佳	17
●海外情報	
欧州から始まる、新たな絹産業の創出へ ～イタリアの養蚕研究所「CREA」の訪問を通して～	
・・・・ 東京科学大学（旧 東京工業大学）環境・社会理工学院 小澤茉莉	19
●イベント情報	21
●一般財団法人大日本蚕糸会から	
2024年度第4次分の純国産絹マーク使用許諾状況	27
純国産絹マーク使用許諾者及び絹製品名一覧	29
活動日誌	37
●蚕糸絹関係博物館一覧	39
●蚕糸絹関係機関ホームページ一覧	42
●統計資料（統計資料の詳細は統計資料目次をご覧ください。）	44

次期中期事業計画の骨子について

大日本蚕糸会では、次期中期事業計画（計画期間：令和8年度～12年度）の策定を進めています。養蚕農家や繭の生産量の減少傾向に歯止めがかからない状態が続いており、これまでと同じような支援措置を漫然と継続していると遠からず我が国から蚕糸業が失われてしまうのではないかと強い危機感を持って検討を進めています。

昨年10月以降、蚕糸・絹業提携グループに対する意向調査や全養蚕農家を対象とした実態調査、さらには製糸業者や蚕種製造業者の経営状況調査を行い、それらをもとに5回にわたり有識者会議を開催し下記のとおり次期中期事業計画の骨子を取りまとめました。

大日本蚕糸会では、今後、これをもとに支援事業等の具体化を進めて行きますが、将来にわたって我が国に養蚕業、製糸業が持続的なものとなるよう検討していきたいと思っておりますので、今後とも関係の皆様のご支援、ご協力をお願いします。

記

新たな中期事業計画（令和8年度～令和12年度）の骨子

令和7年3月21日

I 我が国の蚕糸業の現状

1. 戦後の繭生産のピークは1968年の121千トン（養蚕農家数455千戸）であるが、それ以降、生活様式の変化等により国内の絹需要が減少したこと、中国等の外国産生糸との競争により国産生糸の需要が奪われたこと等から、養蚕農家数、繭生産量の減少が継続。

直近（2024年）の養蚕農家数は134戸、繭生産量は38トンとなっており、現在も養蚕農家数、繭生産量の減少に歯止めがかからない状況。

2. 繭の生産量の約3/4が70歳以上の養蚕農家によって担われており、その70歳以上の養蚕農家の約85%は後継者がいない状況となっているため、このまま推移すれば、遠からず国内から蚕糸業が失われてしまう可能性が極めて高い。

このような養蚕農家の減少の主たる要因は、繭の販売価格が繭の生産費を大幅に下回っていることから、養蚕農家の後継者の育成及び養蚕業への新規参入が極めて限られているため。

3. また、国産生糸を使用した絹製品が安価な輸入生糸を使用した絹製品との差別化が十分なされていないことから、国産生糸の販売価格は製造コストを下回っており、国産生糸を生産している製糸業者（5社）は全て赤字経営。

4. さらに、これまで繭の生産量が大幅に減少してきたことに伴い、蚕種製造業者、稚蚕共同飼育所、桑苗生産業者等関連業者の数も減少し、いずれも極めて厳しい経営環境に置かれている。今後、国内で蚕糸業を存続させていくためには、これらの関連業者も含めて全ての事業者の持続的な経営が可能となるような生産システムを確立していくことが必要。

Ⅱ 蚕糸業支援の基本的な考え方

1. 総論

- (1) 「将来の我が国の養蚕業が自ら持続的に存立し得る状態を確立し、それを通じて国産絹の伝統文化を守る。」という共通の目標に向かって関係者が一体となって取り組んでいくことが必要。
- (2) このため、特に、国産生糸の歴史的、文化的な背景を紹介しつつ、国産生糸の持つ価値を消費者に適切に評価していただくこと等を通じて、生産コストを適切に反映した合理的な繭価格、生糸価格を実現するとともに、新規参入者、後継者を育成・確保するために必要な対策を推進していく。
- (3) 新たな次期中期事業計画においては、大日本蚕糸会が令和8年度から令和12年度までの5年間、業務全般の効率化、重点化、事業体系の見直し等を推進しつつ、この目標を実現するために具体的に何に取り組むかを明確にする。

2. 養蚕農家、製糸業者等に対する支援

- (1) 2008年以降17年間、川上と川下の提携システムの形成を軸とした養蚕農家、製糸業者等に対する支援事業を実施してきたが、「国産生糸の高い販売価格を実現し、これを各生産段階に還元する」という事業本来の目的が達成されていない。
- (2) また、提携システムは取引関係が固定化しているため、需給に応じた柔軟な価格形成が行われない、新たなニーズを有する実需者が養蚕農家から繭を入手することが困難、提携グループに所属する実需者も当該提携グループ以外の養蚕農家から繭を入手しようとしても柔軟な対応が困難等の弊害も指摘されている。
- (3) このため、生産コストを適切に反映した合理的な繭価格、生糸価格を実現することを通じて、蚕糸業を持続的なものにするための取組みに限られた財源を重点的に配分する観点から、提携グループを軸とした支援という仕組みを抜本的に見直し、以下のような仕組みとする。
- ア. 支援の対象者は提携グループに属する養蚕農家、製糸業者に限定せず、国産繭・生糸の希少性を活かした付加価値の高い製品づくりを推進する養蚕農家、製糸業者等に直接支援する仕組みとする。

イ. 支援の対象項目は、

- ・川下業者と養蚕農家、製糸業者が一体となって行う国産生糸の品質の向上、輸入生糸との差別化のために必要な機器の整備等に要する経費の一部
- ・養蚕業の持続的経営、規模の拡大に必要な機器の整備・更新、桑園の整備・改植等に要する経費の一部

とする。

ウ. 支援の実施に当たっては、国が実施する補助事業（「茶・薬用作物等地域特産作物体制強化促進（蚕糸支援関連）」）等との連携に留意するとともに、生産コストを適切に反映した合理的な繭価格、生糸価格を実現することを採択条件とする。

エ. 養蚕農家に対して養蚕に必要な資材が円滑に供給されるよう養蚕資材のリサイクル供給の仕組み作りを支援する。

オ. 養蚕農家の生産コストを抑制するため、引き続き、蚕種製造業者、稚蚕共同飼育所に対して支援する。

（４）国内蚕糸業の規模が縮小する状況の下で、国産生糸の生産、供給が安定的に行われるようにするため、蚕種製造業者、稚蚕共同飼育所、製糸業者等が経営改善方策、蚕種・原料繭や生産資材等の相互融通、業務の役割分担等について情報交換する場の設置等に必要な経費の一部を支援する。

3. 新規就農者、後継者等の育成

（１）国が実施する農業後継者、新規参入者に対する補助事業と連携して、養蚕業に係る農業後継者、新規参入者に対する特別な支援を行う。

（２）養蚕業への新規就農、後継者を育成するため、養蚕研修について群馬養蚕学校と連携して養蚕研修の内容の充実を図るとともに、製糸業者において製糸業務に携わる技術者の養成を支援する。

（３）大日本蚕糸会は、養蚕技術及び製糸技術に関する映像情報、文書情報を収集、整理して、各種研修の教材として活用するとともに、次世代に継承するため保存する。

4. 養蚕農家等に対する技術指導及び情報提供

（１）需要に応じて国産繭を安定的に供給するためには、養蚕農家に対して蚕病防止や桑園の適切な管理等に関する技術指導や情報提供が不可欠。

このため、都道府県段階の協議会等が行う技術指導・情報提供活動を引き続き支援する。

（２）なお、養蚕農家の減少に伴い協議会の体制が縮小してきている産地については、近隣の協議会と共同して開催することなどを検討するとともに、協議会等のない地域で養蚕を開始したい者があった場合には、大日本蚕糸会が直接技術指導、情報提供する仕組みを設ける。

-
-
- (3) また、大日本蚕糸会は、県協議会等を対象にして、全国的な生産・販売状況や技術指導等に必要情報を提供する会議・研修会等を開催する。

5. 新規用途も含めた繭、生糸の需要拡大

- (1) 生産コストを反映した合理的な国産繭、国産生糸の価格を実現するためには、絹製品の消費者（実需者）に、現在、国内の蚕糸業は存亡の危機にあり、国産生糸が生産コストを適切に反映した合理的な価格で取引されなければ遠からず失われてしまうことについて理解していただいた上で、国産生糸には文化的、歴史的な価値があり、希少なものであること等を広報することにより国産生糸に対する需要を喚起することが不可欠。
- (2) このため、大日本蚕糸会は、SNS の活用も検討しつつ、具体的な事例を紹介することを通じて、消費者（実需者）に国産生糸の文化的、歴史的な価値を訴えるための広報活動を積極的に行うとともに、養蚕農家、製糸業者、絹業者等が行う広報活動や国産生糸を応援しようとする団体の諸活動を支援する。
- (3) 蚕、繭の新規用途への販売及び製糸の副産物の販売は、養蚕農家、製糸業者の副収入となり、生産コストに見合った価格で販売されれば、養蚕農家、製糸業者の経営改善に資するものとなる。
- このため、蚕、繭の新規用途の開発及び製品化、蚕糸業の副産物の製品化の取組みを、養蚕農家、製糸業者の経営改善効果を十分に検証しつつ、支援する。
- (4) また、国内の蚕糸業の存続という観点から、蚕、繭の仕向け先は製糸用途を優先することが必要であることに留意して、蚕、繭を新規用途に仕向けた結果、国産生糸の生産に支障が生じないようにするために必要な仕組みを設ける。

Ⅲ 大日本蚕糸会の役割と業務の見直し

1. 限られた財源、要員の下で、事業全般の効率化、重点化を図りつつ、上記Ⅱの「蚕糸業支援の基本的考え方」に則して、各般の支援事業を企画、立案し、適切な業務執行に努める。
2. 特に、国産生糸を使用した付加価値の高い絹製品を製造することにより、生産コストを反映した合理的な繭価格、生糸価格を実現することを目指す養蚕農家、製糸業者と川下関係者の新たな連携構築のための仲介、支援に重点的に取り組む。
3. 国産生糸の文化や歴史、特長、国産の繭・生糸の生産コストや需給動向、新技術や新商品開発等に関する情報収集を行い、シルクレポート、ホームページ等の媒体や講演会等を通じて幅広く発信する。
4. また、国産繭、国産生糸を使用した多様な絹製品の差別化を図る観点から新たに国産の原料生糸等も「純国産絹マーク」の対象とするなど、「純国産絹マーク」が有効に活用されるよう運用を改善する。

-
-
5. ジャパンシルクセンターについては、店舗内に国産繭・生糸製品のコーナーを設けるとともに、これまで提携グループに限って認めていたジャパンシルクセンターの催事利用について、国産生糸を使用した新たな商品を開発・販売しようとする者に広く開放するなど、より国産生糸の需要拡大に資するよう運用を改善する。
 6. 養蚕農家、製糸業者等の蚕糸業関係者とのコミュニケーションを通じ現場の課題を迅速に把握し、農研機構、群馬県蚕糸技術センター及び大学等と連携して、課題の解決のための技術指導や研究開発を行う。
 7. 蚕糸科学技術研究所による実用蚕品種の原種提供は、蚕糸業が持続的に営まれる上で重要な基盤となるものであり、適切なリスク管理のもと着実に実施する。
 8. 蚕糸科学技術研究所の業務については、限られた要員により実施することを考慮し、直接蚕糸業を支える蚕種製造や技術指導を優先する。研究開発については、農研機構や群馬県蚕糸技術センター、大学等との連携強化、役割分担を図りつつ、現場ニーズのある研究に絞って実施する。
 9. 上記のほか、ジャパンシルクセンターの運営、純国産絹マーク制度の運用、表彰事業、貞明皇后研究助成を含めて、本部及び蚕糸科学技術研究所の業務全般について、「蚕糸業支援の基本的な考え方」を踏まえ、各種業務が効率的に実施され、その目的が的確に達成されるよう業務内容や実施方法等を見直す。

(以上)

一般財団法人大日本蚕糸会は令和7年1月29日に会頭名で、蚕糸関係者（各県、県協議会等、蚕種製造業者、稚蚕飼育所、製糸会社等）に対し、以下の蚕病被害防止対策についての通知を発出しました。良質繭の生産に向け、関係者一丸となった取組をお願いします。

良質繭の生産に向けた蚕病被害防止対策について

令和6年の繭の生産量は、特に初秋蚕期以降に大きく落ち込みました。その原因については、本会が昨年11月に開催した「暑さ・蚕病対策勉強会」の資料を分析すると、

- ① 著しい膿病の発生がみられた産地（茨城、栃木、群馬等）
- ② 膿病ではなく高温障害が見られた産地（山形、千葉、岐阜、愛媛等）
- ③ 膿病か高温障害か判断のつかない産地（福島等）
- ④ 硬化病、細菌性軟化病の見られた産地（福島、栃木、愛媛等）

があり、減収要因として様々なものが考えられました。

特に、膿病については、暑さでカイコがウイルス感染しやすくなっていたことも要因の一つと考えられますが、令和4年の初秋蚕期を超える異常な発生がありました。膿病はウイルス病であり、ウイルスを根絶することは困難である以上、飼育環境中のウイルス濃度を可能な限り下げるとともに、カイコを健全な状態に保ち罹患しにくくすることが重要です。

一度膿病が発生すると、飼育室や蚕具等に付着したウイルスは1年以上にわたって感染力を保ち、人や繭袋などを介して拡散します。昨年の膿病の発生の状況を踏まえると、蚕種製造から製糸までのすべての段階で関係者が徹底した防疫対策を講じることが必要です。

本会では、すでに暑さ対策や消毒の徹底などについての専門家のアドバイスを参考に、主要な蚕種製造、稚蚕飼育関係者と現実的に実施可能な対策について検討を行ったところであり、今後は主要産地の農家研修会等において消毒の徹底等を図ることとしています。

以上のような状況をご理解いただき、令和7年の繭生産においては蚕病防除の基本に立ち返り、蚕糸関係者が一丸となって蚕病被害防止対策を徹底していただくよう、関係者への周知をお願いします。

なお、上記事項を踏まえ、大日本蚕糸会では、「新たな混合消毒剤」の普及を図るため、新年度4月に蚕業指導員が所属する各関係JA等に対し、発泡消毒用ノズルを貸与できるよう準備を進めています。

「カイコを育てよう！2025」のお知らせ

ー全国蚕糸関係博物館横断キャンペーンー

一般財団法人大日本蚕糸会

趣旨

日本の蚕糸業は、養蚕、製糸、織物等が地域の重要な産業として発展し、蚕は人々にとって身近な存在でしたが、蚕糸業の衰退とともに目に触れる機会が少なくなっています。

こうした中で、各地の博物館では、地域の特色を活かした展示・催事が開催されていますが、個別に実施されている「カイコ、蚕種の配布」活動を連携することで、かつて日本の産業を支えた蚕糸業を知ってもらうことを目的として、「カイコを育てよう！2025」の名の下に集うこととしました。

事業の内容

参加博物館が行う「カイコの配布」

※博物館毎に配付時期が異なります。詳しくは、各博物館のお知らせでご確認下さい。

統一されたポスター、チラシ、博物館キャラクターグッズ

感想をお寄せいただいた方へ抽選でプレゼントを用意

主催者等

主催：「カイコを育てよう！2025」実行委員会 一般財団法人大日本蚕糸会



2024年 ポスター

参加施設（博物館）

(1) 群馬県立日本絹の里	群馬県高崎市
(2) シルク博物館	神奈川県横浜市
(3) 岡谷蚕糸博物館シルクファクトおかや	長野県岡谷市
(4) 駒ヶ根シルクミュージアム	長野県駒ヶ根市
(5) 西予市野村シルク博物館	愛媛県西予市
(6) 野外博物館 北海道開拓の村	北海道札幌市
(7) ジャパンシルクセンター	東京都千代田区

連絡先
一般財団法人 大日本蚕糸会
(TEL) 03-3214-3500
上原

講演会「匠の技、オール日本で支える」を開催

一般財団法人大日本蚕糸会
蚕糸絹業振興部

去る2月17日（月）に「匠の技、オール日本で支える」と題し、（一財）大日本蚕糸会、全国シルクビジネス協議会の共催で講演会を開催しました。

この講演会には生糸関係の企業の方、染織作家の方、養蚕家の方、大学及び研究機関の研究者など会場に34名、オンラインで90名、合計124名の多くのご参加をいただきました。

講演会の冒頭、主催者を代表して、大日本蚕糸会会頭から以下のようなご挨拶がありました。

「日本の蚕糸業は今、大変厳しい状況になっております。養蚕農家の減少、生産量の減少、ライフスタイルの変化もありこのままでは存続が危うい状況にあります。本日講師をお務めいただきます大西社長におかれましては、世界一の百貨店と言われております三越伊勢丹の社長を長らくお勤め

になりまして、様々な課題に大胆な改革を実施して成果を上げられました。

本日のご講演を通じてわれわれにとって示唆に富んだお話をいただき養蚕業の振興に寄与するヒントをいただけるのではないかと期待しています。」

その後、大西社長様より約1時間30分のご講演、質疑応答がありました。

ご講演では羽田未来総合研究所が運営する「ジャパン・マスタリー・コレクション」が「ジャパンラグジュアリー」と「ジャパンスタイル」で海外のラグジュアリーブランドに頼るのではなく、日本にあるいい素材、テキスタイル、作り手による「ものづくり」を実証している仕組みなど蚕糸関係者にとってこれからの活動に向けて有意義な講演会となりました。



「国産生糸展示・商談会」を開催して

一般財団法人大日本蚕糸会
蚕糸絹業振興部

2月20日（木）、21日（金）において、シルク需要者に向けて国産繭・生糸の良さを理解していただき、付加価値ある作品づくりのきっかけとしていただくため、「国産生糸展示・商談会」を開催しました。商談会には国産繭を使用して生糸を製造している製糸会社5社による生糸や絹製品の展示があり、二日間で10組、上映会には50名を超える方々がご来場になりました。また、作品づくりのイメージを広げていただくため、明治以降の日本の蚕糸業を題材にしたドキュメンタリー映画「シルク時空をこえて」を上映しました。

熱心にこれからの作品作りに向けて商談をされる方、新しくアパレルに参入するための商談の方、新用途利用に向けて商談をされる方など今後に繋がる「国産生糸展示・商談会」となりました。



「絹が生まれる場所」展

2月14日から26日まで、横浜・馬車道駅近くのBankART KAIKO(旧帝蚕倉庫)において、「絹が生まれる場所」展（企画・運営：床下土風）が開催されました。この展覧会では、富岡製糸場世界遺産登録10周年を記念して京都在住のフランス人間国宝シルヴァン・ル・グエン氏が作製した富岡シルクを使用した扇子、蚕から生糸まで国産絹が生まれる空間を東京在住の写真家新津保建秀氏が撮りおろした写真パネルの展示を中心に、様々な絹素材に触れる体験型展示コーナーも設けられていました。大日本蚕糸会は、蚕の一生や繭から生糸ができるまで等のパネルや実物繭・生糸の展示を行うとともに、24日にはシルクラインの林久美子氏による座繰体験を実施しました。

来場者には、写真だけではなく実物の繭や生糸の展示、座繰体験と林氏の養蚕や製糸業についてのトークを通じて日本の蚕糸業への関心と理解を深めていただく良い機会となったと思います。

来場者数は、平日50名程度、土日150名程度とのことでした。

24日に行われた座繰り体験の様子（後ろは大日本蚕糸会の展示）



国際養蚕委員会の活動から

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
生物機能利用研究部門絹糸昆虫高度利用研究領域カイコ基盤技術開発グループ

グループ長 富田秀一郎

国際養蚕委員会（ISC）は蚕糸業に関するあらゆる活動の発展及び改善を技術的、科学的小および経済的な観点の下に奨励促進するために 1948 年に設立された国際団体です。主として加盟国間の情報交換や蚕種製造・飼育・繰糸等の研修、出版物の刊行、蚕糸業に関する国際会議の開催等の活動を実施しています。また、世界の蚕糸業の現状を把握するため 2023 年より代表団による視察を開始しました。初回の視察先はタイ、2024 年は中国を視察しました。



Mulsun Biotech の昆虫工場

中国視察概要

視察は 5 月 26 日から 6 月 5 日にかけて、杭州市、蘇州市、南京市、南充市などを回り、主にシルク関係の企業や試験研究機関

などを視察しました。視察全体の企画は杭州市に本部を置く業界団体「国際シルク連合（ISU）」のお世話になりました。

浙江省農業科学院蚕桑与茶叶研究所では蚕、桑、茶の研究が行われており、平衡致死を活用した雄蚕飼育技術や、繭の形による雌雄判定技術、桑の遺伝子組換えなどに関する技術が紹介されました。浙江理工大学は杭州市に位置する大学で、1897 年創立の Sericulture Academy を起源としています。現在の研究の中心は、製糸以降の主に服飾のデザインに関するものに移っていますが、学内にはシルクの博物館（丝绸博物馆）があり、蚕糸研究の歴史が展示されていました。また ISU 副議長はこの大学に所属しています。

民間企業としてまずは中国最大規模のシルク産業のグループである Cathaya Group を訪れました。ISU の会長は Cathaya の会長です。Cathaya Group では、絹の生産から商品の販売までを手掛けており、上流から下流まで一気通貫したビジネスモデルを展開しているとの説明を受けました。次に訪れた

Mulsun Modern Cocoon Industry は、近代的な技術を活用した「昆虫工場」による全齢人工飼料育を行っていました。物流倉庫のようなシステムを使ってカイコの飼育を行っていました。糸繭生産のための施設に加えて、様々な用途の新素材の開発にも取り組んでいました。蘇州市の苏州上久楷丝绸科技文化有限公司は、中国シルク製品のブランド上久楷（SAINT JOY）として展開をしている企業です。伝統的な絹織物技術をベースに、宋錦をジャガード織機によって作成する技術を持っていました。四川省南充蚕具研究有限公司は、乾繭機ของบริษัทとして 1973 年に設立された企業です。現在は主にドライフルーツの乾燥機の販売を主としていますが、カイコの飼育装置やカイコの飼育に必要な道具の製造販売も行っています。

ISC 総会

ISC では 3 年ごとに事務局長の改選を行います。これまでの事務局長の任期が



Cathaya Group との会議に参加した ISC および ISU のメンバー

2024 年 12 月末日でしたので、2024 年 10 月 12 日にルーマニアのブカレストで総会を開催して選挙が行われました。その次期（2025 ～ 2027 年）の事務局長にインドの Periyasamy Sivakumar 氏が選出されました。また、この機会にルーマニア政府の蚕糸業振興の取り組みについて伺いました。現在首都ブカレストに蚕糸研究拠点 Research Station for Sericulture Băneasa が置かれています。この施設の歴史は 1906 年に設置された Cotroceni Sericulture Station and Mulberry Nursery に遡りますが、1991 年の組織改編で事実上廃止されました。それが 2022 年に復活し、現在は桑品種および蚕品種の保存と育成や繰糸研究を精力的に行っています。ルーマニア政府は新規参入する養蚕農家に対し数万ユーロの補助を始めたとのことでした。



総会に参加した各国代表
(筆者は上段左から二人目)

マイクロ X 線 CT 像は学生実験の解剖の教材となり得るか？

摂南大学農学部農業生産学科

応用昆虫学研究室

准教授 藤井 毅

故郷の東京を出て大阪府枚方市の摂南大学で新しく開設した農学部に着任して早いもので5年目となりました。摂南大学の私の研究室は「応用昆虫学研究室」という名称で、主に害虫防除の視点から植物保護に資する研究に従事しています。一方で、当研究室では私が博士課程時代に籍を置いた理化学研究所時代に出会ったカイコを対象とした脂質代謝メカニズムの研究も行っており、「害虫」と「益虫」の両方との関わりを標榜しています。一般に、新しい研究室に移る際には実験機器の移設に伴い予期せぬトラブルが付きまとうものです。摂南大学の応用昆虫学研究室も、立ち上げ当初はご多聞にもれず、私の専門である昆虫の性フェロモンの分析の主力となる質量分析装置（GC-MS）のガス配管など色々な問題がありました。また、コロナ禍ということもあり物流に混乱が起こっていましたが、島津グループのサポートのおかげで速やかに稼働することができたことを感謝の気持ちと共に覚えています。同時に、当時は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が

恐ろしいものだと分かり始めていたタイミングでもあり、タレントの志村けんさんを始め有名人の訃報がニュースを騒がせていた時期でもありました。このため、摂南大学農学部の一期生の授業はほぼすべてがオンライン形式となり、これまでにそのような形態の授業経験がない私には授業の準備と進行がとても大変なものでした。これについては私の所属する学科の一期生が明るく元気であったため、彼らから元気をもらいながら（そして、色々と教えてもらいながら）、1回1回の授業を進めていったことを思い出します。

そのような中、何とか対面形式で行なうことができた初年次の生物学実験に組み込まれたラットの解剖は印象的でした。対象となる実験動物がマウスでなくラットであったことに少々驚きを覚えましたが、一期生たちも温血動物の解剖が初めてという受講生 [61% 22 名、(受講者 72 名、アンケート回答率 50.0%)] が多く、新しい「気づき」がそこにはあったものと期待します。私は、「解剖」は生物を学ぶ学生にはなるべく経

験してほしいと思いますが、その理由は①実際、生物を解剖することで、精巧な「からだのつくり」を知り、学ぶことができること、②自身の生存のために必要の無い生物の命を奪う解剖という行為を通じて生命の倫理を考えるきっかけを得られるためです。特に①の「からだのつくり」に関しては外部形態にせよ内部形態にせよ、対象となる生物種が進化の過程で獲得した「それぞれの生活環境への適応の結果」を実感できるという点で重要であると考えます。地球上で 100 万種以上という多様化の極みを見せる昆虫類のカラダの作りが大小様々なことも、それぞれの種の「適応の結果」に他ならないのです。この目的で私の学科の 2 年次の学生実験では、このような観点からカイコの幼虫を解剖し内部形態を、また、セミなどの複数の昆虫種の外部形態をじっくり比較観察してもらっています。②の受け止め方や考え方については個人によって違いますし、デリケートな問題なのでここでの更なる言及は避けませんが、温血動物の解剖を通じて学生が「生命の倫理」を立ち止まって考えるきっかけになるのは間違いないでしょう。

上記の理由から、私は解剖を薦める立場にいたのですが、やはり生命を奪うことに抵抗感を覚える学生が一定の割合 (25%) いるのも確かです。時勢もあり、解剖を拒否する学生には無理やり解剖をさせることはできません。実際、手元の記録ではラッ

トの解剖について 6 名 (16%)、カイコの解剖については 2 名 (6%) の学生が見学をしています。学生への聞き取りによると、生物に最初の解剖はさみを入れる際に抵抗を感じるようで、このステップを乗り越えると、それほどの抵抗を感じないという学生が多いようです。この背景で、どうしたら解剖に抵抗感を持つ学生に、生物種がもつ環境への適応に成功した体のつくり (ボディプラン) を知ってもらえるでしょうか？

最近、実験機器の移設からのご縁とご厚意で島津製作所様に私の研究対象となるガ類昆虫 (カイコガ) の断層写真をマイクロ X 線 CT で撮影していただく機会がありました (図 A-D)。その断層写真を見ると、技術の進歩とは凄いもので解像度も 100 μm にせまろうかとの域に達し、軟組織もかなりクリアに確認できます (図 C,D)。何よりも、複雑な前処理が不要で簡単に昆虫の内部構造を非破壊で解剖をせずに観察できることに驚きました。解剖では目的とする器官や組織の色、形、大きさなどの情報はもちろんですが、実は空間的な情報、つまりターゲットとなる組織の位置と周辺環境、例えば昆虫の気管であれば気門に接続しており脂肪体と接続しているか？消化管より背側か腹側か？なども重要です。生き物にハサミを入れ、空間的な情報が失われた状態ではアトラスをみても組織を照合することがとても難しくなることがあります。アトラスとは大地を司るギリシャ神話に登場

する神の名前ですが、転じて地図、解剖図という意味で使われます。この点で空間的な情報を保ったままの非破壊観察では、新たな発見が生まれることがあります。例えば、下図は、カイコの断層写真の矢状面（図C）と冠状面（図D）の一枚ですが、矢状面では腹部が消化管以外の大部分の空間を卵巣卵が占有していることが良く分かりますし、冠状面から腹部末端に行くにつれて卵巣が腸管の下に潜りこむことが良く分かります。この結果は、カイコガの肛門が産卵孔よりやや上部にあることと良く一致します。また、多くの人をご存知の昆虫のボディプランである頭部、胸部、腹部を分割する接合部の位置と構造も明らかです。また原生動物では機械的咀嚼に関わる吸胃と呼ばれる器官（図中*）が、カイコでは成虫が繭から脱出するための酵素コクナーゼの分泌組織です。その形状はカイコガを解剖して摘出したものは球状に見えるのですが、実際は頭部側では先が細くなって消化管と接続しているであろうことが断層写真から分かりました。

何事もそうですが、ものの見方を変えようと、景色がガラリと変わることは良くあることですし、そこには新しい発見の余地があります。このような知識ではなく好奇心を伴う「新しい気づき」を学生に教えることも、大学の教育ミッションのひとつです。今はまだ、コストや設備環境の問題か

らX線CTによる断層写真の撮影と読影を学生実験に導入することは難しいと思われます。しかし、そう遠くない将来、解剖に興味を持つ学生が切り開いた生体と、解剖が苦手な学生が取得し読影した断層写真を見比べながら2人で1グループとなり、協働で学修する時が来るかもしれません。医療で活用されるX線CTが生物学の分野に十分普及・浸透したとき、従来のように「切ってスケッチ」の解剖実習から、例えばそう遠くない将来、各グループが異なる生き物を観察しグループ毎にボディプランの違いを中心としたディスカッションを展開する新しい実習の形が見えた気がしました。

謝辞

島津製作所の小谷和範氏、彌榮のどか氏、北村孝平氏には、本執筆のきっかけになったともいえるカイコガのマイクロX線CT撮影にご協力をいただきました。心より感謝申し上げます。摂南大学農学部農業生産学科1期生の皆様には、生物学実験のアンケートにご協力いただきました。ご回答いただいた皆様に心より感謝申し上げます。最後に、本文の掲載の機会をいただいたばかりか、初稿の推敲をしていただいた東京農工大学の横山岳教授に深謝申し上げます。

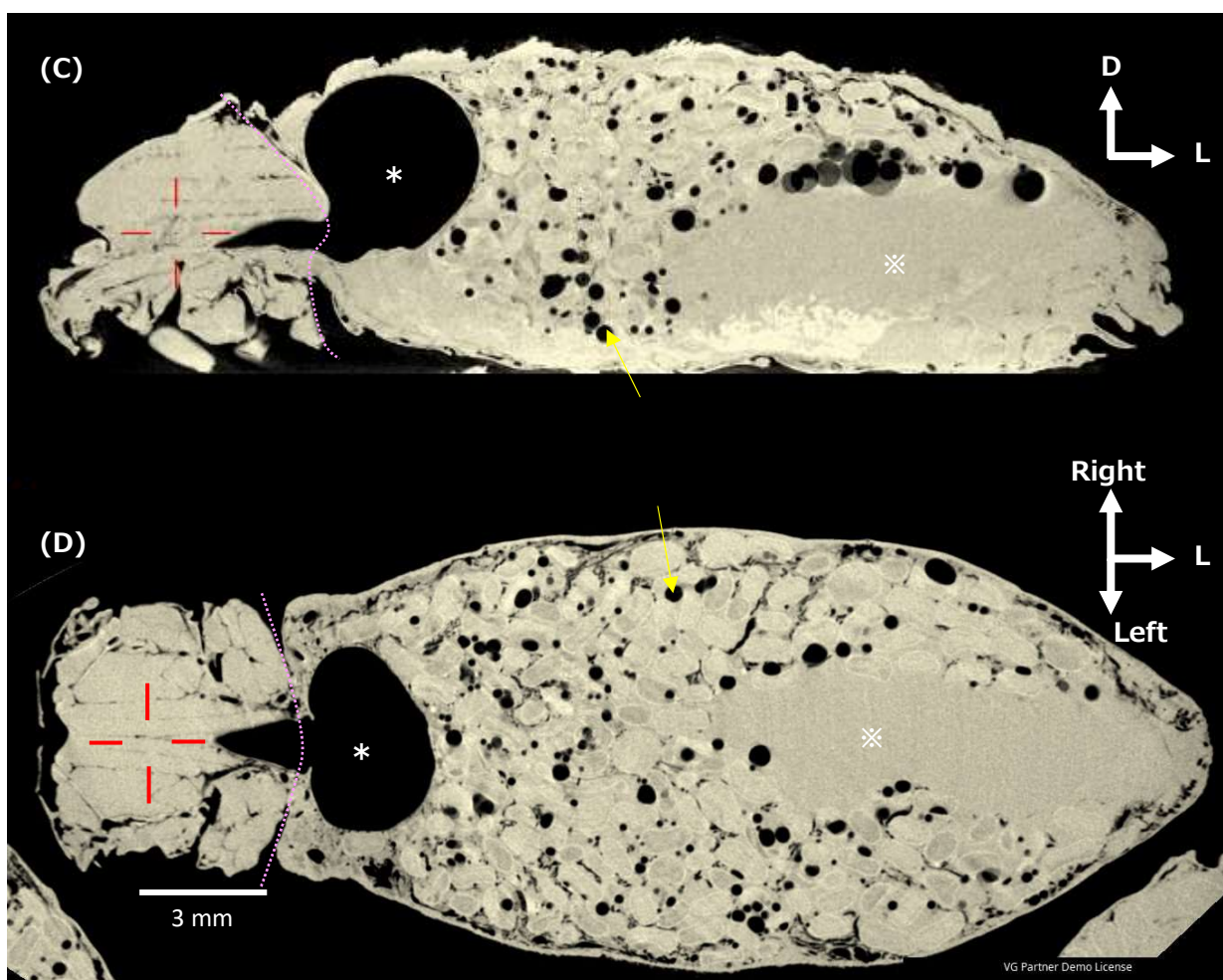


図: X線CT装置 (A)とその内部の試料台(B). カイコメス成虫の直接矢状断面像 (C)と冠状断面像(D). *は吸胃を示し、※は消化管を示す. 胸部と腹部の境界は桃色点線で示した. 吸胃が成虫では胸部と腹部にまたがる様子が良く分かる. 胸部の繊維状の組織は飛翔筋を構成する各種筋肉組織(赤十字)、腹部の粒状組織は卵巣卵、顆粒様脂肪体、マルピーギ管が立体的に複雑に絡み合うことが示唆された. 腹部には気泡と思われる空隙を示唆する黒点(黄色矢印)を多く認めた. 撮影には断頭無翅個体が用いられた.

暑さ・膿病対策を万全に

一般財団法人大日本蚕糸会
蚕糸科学技術研究所
野澤瑞佳

はじめに

令和6年の晩秋蚕期は、9月中旬まで続いた厳しい残暑の影響と、配蚕直後から発生したカイコ核多角体病（膿病）の影響により、関東圏内の養蚕農家では深刻な繭の不作に見舞われました。作柄が特に不良であった養蚕農家に共通している点は、1）稚蚕人工飼料育のカイコが配蚕されていたこと、2）配蚕後、3齢就眠前の早い段階から膿蚕（うみこ）が散見されたこと、3）配蚕された蚕品種が“錦秋×鐘和”であったことが挙げられます。

晩秋蚕期の不作原因

晩秋蚕期の配蚕前に、新消毒剤の実証試験を行うための事前調査として、栃木県内の養蚕農家を対象に塵埃調査を行い、膿病の原因ウイルス（NPV）の残留状況を確認したところ、飼育施設からはNPVが全く検出されませんでした。この結果と3齢就眠前に膿蚕が見られたことを考えると、配蚕の直前または直後のカイコにNPVが感染していたと考えられます。

これまで養蚕農家で見られた膿病の発生パターンは、5齢の後半から膿蚕が発生するようになり、収繭直後に内部汚染繭が多発する場合が多かったのですが、今回は、かなり早い段階で膿蚕が発生したため、座内感染による減蚕が発生し、更に9月の暑さも影響して（図1）、膿病の発生がこれ

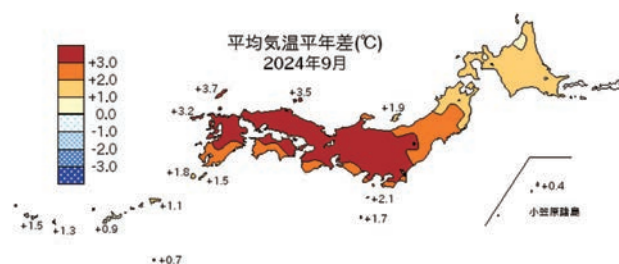


図1. 2024年9月の平均気温平年差
気象庁HPより引用

まで以上に助長された可能性があります。過去の研究事例をみると、カイコの5齢幼虫（品種：神輝×綾宝）は、低温以外にも高温条件下（37℃，3時間接触）でウイルス感染抵抗力が低下するため（松原ら，1984）、通常では感染しない微量のNPVでも感染・発病するようになります。今後、夏～晩秋蚕期に直面する異常な猛暑には、膿病対策の上でも注意が必要です。

今後の対応

現状では、稚蚕飼育から配蚕までのどの段階でカイコにNPVが感染したのか立証する手立てが無く、原因を突き止めることも極めて困難です。このため、原種を扱う蚕糸科学技術研究所の段階から製糸工場に至るまで、これまで以上に膿病対策を徹底し、業界が足並み揃えて膿病防除に努める必要があります。このような理由から、令和6年11月27日に、主たる蚕糸関係者が集まり、令和7年度の繭作安定に向けた「暑さ・蚕病対策勉強会」が開催されました。

そのなかで、暑さと膿病対策への総合的なアドバイスを行い、実用蚕品種に関わる全ての作業工程で膿病対策の強化を図ることを、具体例をあげて周知しました。令和7年度は、業界全体で膿病対策に取り組むことから、膿病への備えはこれまで以上に強化されることが期待されます。

長距離配蚕における注意点

膿病に負けない、丈夫なカイコを育てるためには、配蚕中の温湿度にも注意が必要です。特に6月後半から最高気温が30℃を超えるため、夏蚕期以降は、配蚕中のカイコが蒸れないように特段の配慮が必要です。配蚕中の車内温度を何度に設定するかで露点温度（結露の温度）が変わるため、事前にデジタル温湿度計などを使用して外気の温湿度を測定し、下記のQRコードから計算サイトに入り、測定した温湿度を入力すれば簡単に露点温度が求まります。これを参考に配蚕用の車内温度を設定すれば、結露の予防が可能です。参考までに高温時の露点温度を求めると下記の通りとなり、気温が高い時期は、蚕座を乾燥させた状態が配蚕に適していることが判ります。

～露点温度の計算例～

気温 35℃, 湿度 90%, 露点 33℃

気温 35℃, 湿度 65%, 露点 27℃



養蚕農家における注意点

昨年の晩秋蚕期に膿病が多発したことから、養蚕農家の飼育施設にはNPVが広範囲に拡散・残留していると考えられます。NPVは飼育環境中で1年以上生存するため油断は禁物です。春蚕期に向けた消毒作業は膿病に効果のある消毒剤を選択し、飼



図2. D-DAC 消石灰液による発泡消毒の様子

育関連施設（蚕室・貯桑場・上簇室）の他に、作業者が往来する作業動線上や母屋の入口まで幅広く消毒することが大切です。飼育装置に張るネットや上簇網等も浸漬消毒を行って下さい。膿病の原因ウイルスに効果のある消毒剤は、消石灰の飽和液や養蚕用除菌洗浄剤、ホルマリン等がありますが、次に紹介する新蚕室消毒剤は、膿病対策として特にお勧めできます。

D-DAC 消石灰液の実用化と膿病防除への期待

群馬県蚕糸技術センターとの共同開発により、塩化ジデシルジメチルアンモニウム（D-DAC）と消石灰の混合液による発泡消毒を養蚕分野で初めて実用化しました（図2）。対象病原はウイルス、糸状菌、細菌ですが、特に膿病の原因ウイルスであるNPVには高い消毒効果を期待できます。D-DAC 消石灰液の詳細を下記QRコードから参照いただき、令和7年度の膿病防除に活用頂ければ幸いです。本年は皆で協力し合い、膿病の少ない年にしていきたいと思います。春からの豊作を期待しています。



欧州から始まる、新たな絹産業の創出へ ～イタリアの養蚕研究所「CREA」の訪問を通して～

東京科学大学（旧 東京工業大学）
環境・社会理工学院
小澤茉莉

19～20世紀には欧州における一大絹産地として名を馳せたイタリア。その後、カイコの微粒子病の拡大により欧州全体で養蚕業は壊滅的な状態となったが、近年イタリアをはじめとした欧州諸国が一丸となり、新たに絹産業の再興に向けた取り組みが動き出している。そこで、今回は2024年秋に筆者が実施したイタリア調査のなかでも、特に印象的であったCREA（Council for Agricultural Research and Economics）への訪問、そしてCREAが参画する欧州絹産業の復活に向けたプロジェクト「ARACNE（Advocating the role of Silk Art and Cultural Heritage at National and European scale）」について報告する。

これまで筆者は文化人類学を専門とし、国内養蚕業の歴史や今日の実態について調査してきた。とくに、農業として継承されてきた養蚕がいかに西洋から流入した科学知と融合しながら今日に至っているのか、という科学技術史に関心がある。歴史をふりかえると、周知のように日本の養蚕業は海外取引によって栄えてきたと同時に、文化・技術交流も盛んにおこなわれてきた。

筆者自身、そうした絹の国際交流にも関



CREA の施設

心がある中で、大きなインスピレーションを得たのが、2024年8月に開催された大日本蚕糸会主催の講演会でも取り上げられた、「ARACNE」というプロジェクトだ。このプロジェクトは、欧州絹産業の復活を目指し、研究とイノベーションに向けたEUのプログラムである「Horizon Europe」から資金提供を受け、2023年より開始した。このプロジェクトの予算は3年間で300万ユーロ（約5億円）であり、絹産業にゆかりのあるイタリア、ギリシャ、ジョージア、スペイン、スロベニア、フランス、ブルガリアの7カ

国が参加する大規模なプロジェクトだ。

そして、この国境を越えたプロジェクトを牽引するのが、イタリア・パドヴァにある CREA という研究機関である。パドヴァは、ヴェネチアより電車で 30 分ほど西へ移動した地域にある閑静な街で、14 世紀に建てられたスクロヴェーニ礼拝堂や、13 世紀に創立した名門パドヴァ大学を有する。

CREA はカイコや桑に関する研究を展開しており、いわば日本における「蚕糸科学技術研究所」の役割を担っている。隣接する博物館では、イタリアにおける養蚕の様子や、カイコの生態に関する展示をおこなっている。国は違えども、それぞれの風土に根差した形で続いてきた人間とカイコの関わり合いの歴史に思いを馳せた。

同時に、関係者と話す中で、今も国境を越えた技術交流が続いていること、そしてイタリアにおいても絹文化をどうにかして後世に残したいという思いの強さを感じた。それは、単に過去を顧みるのではなく、イタリアという国に深く根付く一つの文化として現代、そして未来の絹文化をまなざしているように思えた。現在、欧州において養蚕をはじめとした絹産業に従事している人はほとんどいない。そうした状況の中でも、ARACNE では教育機関や博物館などの多様なアクターが連携し、文化遺産の保全という枠組みにとらわれず、来たる絹業界におけるイノベーションに向けた情報収集や関係者のコミュニケーションの強化に取り組んでいる。



CREA で飼育されているカイコ

今回のイタリア訪問を通して、絹をめぐる文化、産業、そして科学技術の結びつきを実感すると同時に、今も養蚕や製糸、織物の技術が現存する日本は「奇跡」であると再確認した。一度失われた技術を回復するのは容易ではない。先人たちが築いてきた「絹の道」をこれからも拓き続けるためにも、現代が求めるものづくりとは何か、絹の意義とは何かを再解釈していく必要がある。国内のみならずイタリアやフランスをはじめとした欧州との連携も重要であろう。引き続き筆者も欧州絹産業の動向を追いながら、国境を越えた絹のつながりを生み出していきたい。

【謝辞】本研究は、JST 次世代研究者挑戦的研究プログラム JPMJSP2106 の支援を受けた。

イベント情報

●岡谷蚕糸博物館 企画展 「花岡哲象 絹本日本画展」

岡谷市出身の日本画家、花岡哲象氏は絹本日本画に独自の世界観を表現してきました。通算 70 回目の個展にあたる今回の企画展では、20 代から現在までの作品を前期・中期・後期の三期に分けて展示いたします。岡谷市湊にアトリエ澄神洞を構え、冬麗社絹絵研究会にて後進の指導にもあたっている哲象氏の作品をご鑑賞ください。

〈会期〉 令和 7 年 2 月 20 日（木）～ 6 月 15 日（日）
前期 2/20 ～ 4/7 中期 4/10 ～ 5/12 後期 5/15 ～ 6/15
休館日：水曜日・祝日の翌日、4/8、5/13 は臨時休館

〈主催〉 岡谷蚕糸博物館 ーシルクファクトおかやー

〈会場〉 岡谷蚕糸博物館 〒 394-0021 長野県岡谷市郷田 1-4-8

Tel: 0266-23-3489

<https://silkfact.jp/>

E-mail: hakubutsukan@city.okaya.lg.jp

●日本絹の里 企画展 「錦の夢に酔う ～バブル期の打掛と着物ドレス・若槻せつ子コレクション～」

昭和～平成バブルの結婚式を華やかに彩った匠の技が輝く宝石のように豪華な打掛の数々。ファッションディレクター・若槻せつ子さんの私蔵コレクションから、伝統文化を次世代につなぐ着物ドレス作品とともに紹介します。

〈会期〉 令和 7 年 4 月 12 日（土）～ 5 月 18 日（日）
休館日：火曜日、4/30（水）、5/7（水）
※ 4/29（火）・5/6（火）は祝日のため開館

〈主催〉 群馬県立日本絹の里

〈会場〉 群馬県立日本絹の里 〒 370-3511 群馬県高崎市金古町 888-1

Tel: 027-360-6300

<https://www.nippon-kinunosato.or.jp>

●日本絹の里 特別展

「石原清紫展 ー花園に遊ぶ友禅染ー」

草花の特徴的な部分を抽象化してデザインし、制作する伊勢崎市在住の友禅作家・石原清紫さんの作品を紹介する展覧会です。友禅染ならではの発色の柔らかさによる、絹の染色作品の素晴らしさをご堪能ください。

〈会期〉 令和7年5月24日（土）～7月6日（日）

休館日：火曜日

〈主催〉 群馬県立日本絹の里

〈会場〉 群馬県立日本絹の里 〒370-3511 群馬県高崎市金古町 888-1

Tel: 027-360-6300

<https://www.nippon-kinunosato.or.jp>

●シルク博物館

【実演・ワークショップのご案内】

4月12日（土） ワークショップ くみひもストラップ作り

4月19日（土） 【実演】 手作り真綿の実演

5月3日（土・祝） 子ども向けワークショップ まゆ人形作り

5月4日（日・祝） 【春の企画展関連イベント】 レトロなキモノの試着体験

5月5日（月・祝） 【春の企画展関連イベント】 レトロなキモノの試着体験

5月10日（土） 【実演】 手紬糸作りの実演

5月24日（土） 【実演】 手作り真綿の実演

5月31日（土） 子ども向けワークショップ まわた人形「あひるの親子」作

6月1日（日） 【春の企画展関連イベント】 レトロなキモノの試着体験

6月7日（土） 子ども向けワークショップ かいことシルクの勉強会

6月21日（土） 子ども向けワークショップ かいことシルクの勉強会

6月28日（土） 【講習会】 手作り真綿の講習会

※講習会は、事前申込（抽選）申込受付期間：5月18日（日）～6月14日（土）

ワークショップの申し込みは事前予約制です。

詳細はホームページをご覧ください。お電話にてお問合せください。

〈主催〉 シルク博物館

〈会場〉 シルク博物館 〒231-0023 横浜市中区山下町1番地シルクセンター2階

Tel: 045-641-0841

<https://www.silkcenter-kbkk.jp/museum/>

●シルク博物館 春の企画展
「シルク博物館新収蔵品展」

令和2年（2020）から5年間にわたって購入ならびに寄贈によって収蔵した資料約100点を一堂に展示公開します。購入資料は、“横浜とシルク”ならびに当館の建つ山下町1番地（開港当時は居留地1番地）に縁のある資料を中心に収集し、錦絵や絵葉書、養蚕書等、生糸貿易港として栄えた横浜の歴史を伝える一助となりました。寄贈資料は、佐賀錦、刺繍、友禅染、型絵染の作家作品など、次世代に残すべき絹染織工芸品の寄贈を受けました。本展は当館に新たに迎えた収蔵資料をご覧いただき、シルク博物館に親しんでいただく機会となれば幸いです。

〈会期〉 令和7年4月26日（土）～6月8日（日）
会期中の休館日：月曜日、休日の場合は翌日
（4/28（月）、5/7（水）、5/12（月）、5/19（月）、5/26（月）、6/2（月））

〈時間〉 9：30～17：00（ただし入館は16：30まで）

〈料金〉 一般500円（300円）、シニア・大学生300円（200円）、
小・中学生・高校生100円（50円）
※（ ）内は団体料金です。

〈主催〉 シルク博物館

〈会場〉 シルク博物館 〒231-0023 横浜市中区山下町1番地シルクセンター2階
Tel: 045-641-0841
<https://www.silkcenter-kbkk.jp/museum/>

★イベント開催報告

岡谷蚕糸博物館 企画展

「宮坂博文の世界展」

会期： 令和6年11月14日（木）～令和7年2月16日（日）

開催報告：

岡谷市出身のテキスタイルデザイナー故宮坂博文氏の作品・資料を特集した企画展を開催しました。自身の制作した作品や織見本を展示したほか、全国各地を回り、産地で指導をしてきた功績を物語る資料を展示しました。講演会では牛首紬の西山産業開発株式会社の西山博之社長をお招きして、牛首紬の歴史と今日に至るあゆみ、その中で宮坂博文氏から指導を受けてきた経験についてお話しいただきました。

群馬県立日本絹の里 特別展

「群馬県作家協会展～明日にいきづく伝統文化～」

会期： 令和6年12月21日（土）～令和7年2月3日（月）

開催報告：

群馬県の伝統文化である絹産業は、養蚕・製糸・染織に携わる職人と、それらに必要な道具や信仰物等を作る多くの「匠」の技に支えられてきました。本展では、伝統の技を継承して創作活動を行っている群馬県作家協会会員10名の多種多様な作品を展示し、絹文化や創造の魅力をお伝えしました。

会期中は、伝統文化に触れていただく機会として、出展作家によるギャラリートーク、制作実演会、ワークショップ、作家と語る会などの関連行事を開催しました。

群馬県立日本絹の里

第26回「群馬の絹」展 ～観る、買う、装う、シルクとの出会い～

会期：令和7年2月7日（金）～11日（火・祝）

開催報告：

「群馬の絹」展は、長い歴史と伝統に培われた染織や最新の加工、製造技術を駆使して創り上げた、優れた織物、ニット、工芸品などの絹製品を一堂に集めて皆様に広く紹介し、「群馬の絹」を体感していただき、蚕糸絹業の活性化、絹の需要拡大を図ることを目的に開催しました。期間中は特別に入館料無料とし、絹製品の展示・販売のほかにも、「きもの着付け体験」や、「藍染め」等の体験をとおして絹の魅力に親しんでいただきました。

シルク博物館 冬の企画展

「たのしいかいこの発表会」

会期： 令和6年12月10日（火）～令和7年1月19日（日）

開催報告：

シルク博物館では、令和6年12月10日（火）から令和7年1月19日（日）まで「たのしいかいこの発表会」を開催しました。当発表会には幼稚園・保育園児や小学生の総勢872名の皆さんから計357点もの作品を出品いただき、蚕についての研究や観察記録、絵画、まゆ・生糸を使った工作等、すばらしい作品の数々が揃いました。それぞれの作品からは蚕へのひたむきな愛情や好奇心、研究心が感じられ、一年を通して蚕について深く学ぶ当館の教育普及事業「チャレンジ！かいこプログラム」の集大成としてふさわしい展示発表の場となりました。

2024 年度第 4 次分の純国産絹マーク使用許諾状況

純国産絹マークの 2024 年度第 4 次審査委員会を 2025 年 2 月 26 日(水)に開催しました。今回の申請は 6 者で、使用許諾されている 6 者のうち製品の追加 1 者 3 品目、履歴の追加 4 者 4 品目、数量の追加 1 者 1 品目の申請がありました。これらの申請を審査委員会で審査した結果、6 者 8 品目に対し、3 月 5 日(水)付けで純国産絹マークを使用許諾する旨、通知しました。

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (繭生産地・企業等)
(製品の追加) (株) とみひろ 代表者名：富田浩志 (担当者：富田泰弘) 〒 990-0031 山形県山形市十日町 4-1-3 TEL：023-635-1212 表示者登録番号 075	先染反物	16 反	繭生産 自社養蚕所 製 糸 松岡(株) 染 織 自社工房
	先染反物	4 反	繭生産 自社養蚕所 製 糸 松岡(株)、自社工房 染 織 自社工房
	先染帯地	6 本	繭生産 自社養蚕所 製 糸 松岡(株)、自社工房 染 織 自社工房
(履歴の追加) (有) 綵巧 代表者名：室門恒明 (担当者：室門耕一郎) 〒 603-8322 京都市北区平野宮本町 85 番地 TEL：075-461-5394 表示者登録番号 231	先染反物 (西陣御召)	100 反	蚕品種 錦秋×鐘和 繭生産 JA なすの管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸(株) 染 色 足利染工 製 織 自社
(履歴の追加) (株) 高島織物 代表者名：中須賀賢一 (担当者：北村光祥) 〒 603-8225 京都市北区紫野南舟岡町 5 番地 TEL：075-431-0111 表示者登録番号 248	白生地(表地)	25 反	蚕品種 錦秋×鐘和 繭生産 JA はが野管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸(株) 製 織 村井機業場 精 練 丹後織物工業組合

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (繭生産地・企業等)
(履歴の追加) 日本蚕糸絹業開発協同組合 代表者名：小林幸夫 (担当者：小林幸夫) 〒 370-0006 群馬県高崎市問屋町 3-5-3 TEL：027-361-2377 表示者登録番号 021	裏地 (胴裏絹)	300 枚	制作企画 絹小沢 (株) 繭生産 群馬県内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸 (株) 製 織 齋栄織物 (株) 精練加工 鈴津
(数量の追加) (株) 高島屋 代表者名：村田善郎 (担当者：山口安隆) 〒 542-8510 大阪市中央区難波 5-1-5 TEL：06-6631-1101 表示者登録番号 030	後染反物 (四つ身)	6 反	繭生産 JA なす南管内養蚕農家 製 糸 松岡 (株) 製 織 美雲織物 (株) 染色加工 (株) 千總
(履歴の追加) (同) COCON 代表者名：田中隆 (担当者：田中隆) 〒 575-0003 大阪府四條畷市岡山東 5-5-32 TEL：072-876-0774 表示者登録番号 252	絹手袋	155 双	繭生産 JA 利根沼田管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸 (株) 製編・縫製 (株) 今川

次回の純国産絹マーク審査会の予定は次のとおりです。

純国産絹マークの使用許諾を申請される方は、事務局との事前協議を経た上で、下記の提出締切日までに、純国産絹マーク使用許諾申請書を提出してください。

次回審査会 2025 年度第 1 次：2025 年 5 月 27 日 (火)

純国産絹マーク使用許諾申請書の提出締切日：2025 年 4 月 25 日 (金)

(連絡先)

〒 100-0006

東京都千代田区有楽町 1-9-4 蚕糸会館 6 階

一般財団法人 大日本蚕糸会

担当：岡島、伊藤

TEL：03-3214-3500 FAX：03-3214-3415

E-mail：岡島：aokajima@silk.or.jp

伊藤：ito@silk.or.jp

一般財団法人大日本蚕糸会から

純国産絹マーク使用許諾者及び絹製品名一覧 2025年2月26日（2024－第4次）現在

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
001	(株) 千總	京都市中京区	後染反物（振袖、訪問着、付下、色無地、色留袖、黒留袖、喪服）、胴裏
002	(株) 織匠田歌	京都市上京区	先染反物、後染帯地
004	(株) 丸上	東京都中央区	後染反物（色無地、小紋、付下、黒紋付）、後染帯地
005	(株) 坂本屋	茨城県土浦市	後染反物（色無地）、胴裏（灰汁浸け加工）
006	(有) 平原	福島県白河市	後染反物（色無地、黒紋付）
007	(株) 信盛堂	東京都清瀬市	後染反物（色無地、黒紋付）
008	(株) きものアイ	新潟県十日町市	後染反物（色無地）
009	(株) 上庵	岩手県北上市	後染反物（色無地、黒紋付）
010	(有) 樹 (いづき)	秋田県横手市	後染反物（色無地、黒紋付）
011	(株) 銀座もとじ	東京都中央区	後染反物（作家作品）、後染帯地、先染反物（大島紬、結城紬、御召、作家作品）、先染帯地（織九寸帯、織角帯、作家作品）、白生地、和装小物（帯締、羽織紐）、八掛、胴裏
012	河瀬満織物（株）	京都市上京区	先染帯地
013	(有) 織匠小平	京都市北区	先染帯地
015	(株) 結華	静岡県清水町	後染反物（色無地、黒紋付）
016	(有) 絹回廊	東京都中央区	後染反物（色無地）
018	(有) 大善屋呉服店	福島県会津若松市	後染反物（色無地、黒紋付）、後染帯地、白生地（表地）
020	呉服のささき	山形県天童市	後染反物（色無地、黒紋付）
021	日本蚕糸絹業開発協同組合 (絹小沢（株）)	群馬県高崎市	裏地（胴裏（ぐんま羽二重、ぐんまレピア、ぐんま 200、灰汁浸加工、トルマリン加工）、八掛、比翼地）、長襦袢地、後染反物（作家作品、紋付地）、白生地（世紀二一、上州絹星・ぐんま 200、新小石丸）、後染帯地（（冬物・夏物）：うるし糸が5%を超えるもの）、寝衣（うぶ着、おくるみ）、和装小物（袷紗、帯揚）
022	宮階織物（株）	京都市上京区	先染反物、後染反物
023	21世紀の絹を考える会	京都府城陽市	後染反物（色無地、訪問着）、先染帯地（袋帯（草木染、唐織））
024	碓氷製糸農業協同組合	群馬県安中市	白生地、マフラー
025	丸幸織物（有）	京都府京丹後市	白生地
026	織匠万勝	京都市中京区	先染帯地（袋帯、名古屋帯、袋帯：金銀糸が5%を超えるもの）、先染反物（御召類、着尺）、後染反物（色無地）
027	(有) 織道楽塩野屋	京都府亀岡市	洋装品（マフラー、シャツ、ニット（ウォーマー、腹巻、手袋、靴下））
028	(株) 丸万中尾	滋賀県長浜市	後染反物（江戸小紋、小紋、付下、友禅、色無地、訪問着、留袖、色留袖）、後染帯地、白生地（表地）
029	(株) むらかね	青森県八戸市	後染反物（色無地、黒紋付）
030	(株) 高島屋	大阪市中央区	後染反物（振袖、七五三着物、色無地、訪問着、黒留袖）、白生地（長襦袢地、胴裏）、ニット（靴下）、風呂敷
031	(株) さが美	神奈川県平塚市	後染反物（黒紋付（冬用・夏用）、色無地）

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
032	(有) まるけい	静岡県富士市	後染反物 (色無地、黒紋付)
033	(有) 特選呉服専門店後藤	青森県むつ市	後染反物 (色無地、黒紋付)
034	(株) 小いけ	山形県鶴岡市	後染反物 (色無地、黒紋付、小紋)
035	(株) 伊と幸	京都市中京区	後染反物 (色無地、訪問着)、白生地 (表地、胴裏、帯地)、白生地 (表地 (天蚕糸交織))、白生地 (帯地 (天蚕糸交織))、婦人用ブラックフォーマル地、長襦袢
036	(株) 四季のきものおおにし	東京都杉並区	後染反物 (色無地、黒紋付)、後染帯地、白生地 (表地)
037	(株) 和幸	埼玉県久喜市	後染反物 (色無地、黒紋付)
038	(株) 榎屋高尾	京都市北区	先染帯地 (袋帯)
039	(株) つるや	埼玉県川越市	後染反物 (色無地、黒紋付)、白生地 (表地)
040	(株) 越後屋	千葉県市川市	後染反物 (色無地、黒紋付)
041	(株) 小倉商店	茨城県結城市	先染反物 (結城紬)、先染帯地 (結城紬)、白生地 (結城紬)
042	柳 崇 (染織家 柳崇)	東京都世田谷区	先染反物、先染帯地
043	児玉京子 (染織家 児玉京子)	沖縄県竹富町	先染反物、先染帯地
044	草木染工房山村 山村多栄子	東京都八王子市	先染反物、先染帯地、先染帯地 (金銀糸が5%を超える)、先染服地、ストール
045	手織りよおん 長嶺亨子	沖縄県沖縄市	先染反物、先染帯地、服飾品 (ストール)
046	祝嶺染織研究所	沖縄県沖縄市	先染反物、先染帯地
047	(株) 龍工房	東京都中央区	帯締
048	からん工房 深石美穂	沖縄県石垣市	先染反物 (紋紬、紵)、先染帯地
049	たわた工房	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地
050	山音 (株)	京都市中京区	後染反物 (色無地 (変三越、駒紬))
051	やまと (株)	京都市下京区	後染反物
053	桜井 (株)	京都市北区	先染帯地
054	有栖川織物 (有)	京都市上京区	先染帯地
055	太田和 (株)	京都市中京区	先染反物 (結城紬)、先染帯地 (結城紬)
056	(株) 岩田	京都市中京区	先染帯地
057	(有) 神原呉服店	千葉県銚子市	後染反物 (色無地、黒紋付)
058	浅山織物 (株)	京都市北区	先染帯地
059	(株) やまと	東京都渋谷区	先染帯地、先染帯地 (金銀糸が5%を超えるもの)、白生地 (加賀友禅用)、先染着尺 (加賀友禅用)、和装小物 (帯揚げ)
060	田中種 (株)	大阪市中央区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠)、黒紋付、加賀友禅、色無地、すかし織着尺)、後染帯地 (九寸名古屋帯)、ニット (靴下、ネック&ボディ、ショルダー、アーム、タンクトップ、腹巻、手袋、ピロケース、肌襦袢、ネックウォーマー)、真綿布団、ハーフケット、布団カバー
061	(株) 京扇	東京都中央区	後染反物 (色無地)、胴裏 (パールトーン加工)
062	(株) なごみや	横浜市都筑区	後染反物 (色無地、黒紋付)

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
063	丸池藤井 (株)	京都市中京区	後染反物 (色無地)、八掛
064	久保商事 (株)	京都市中京区	和装小物 (帯揚、半衿)
065	加賀グンゼ (株)	石川県小松市	胴裏
066	千切屋 (株)	京都市中京区	後染反物 (訪問着、付下)、後染帯地
067	荒川 (株)	京都市下京区	和装小物 (帯締、帯揚)
069	(株) 紅輪 ((株) 紅輪 まるやま・京彩 グループ)	川崎市宮前区	後染反物 (色無地)、白生地 (表地 (紋意匠))
070	装いの道 (株)	東京都千代田区	白生地 (帯地、表地)、胴裏 (トルマリン加工、灰汁浸加工、ぐんま 200、新小石丸)
071	(株) 高橋屋	岩手県一関市	胴裏 (灰汁浸加工)
072	おお又 (株)	大阪市旭区	胴裏 (灰汁浸加工)、ニット (靴下)
073	(株) 天野屋呉服店	栃木県小山市	胴裏 (ぐんま 200 (灰汁浸加工))、白生地 (表地)
074	(株) きもの潮見	愛媛県西条市	胴裏 (パールトーン加工)
075	(株) とみひろ	山形県山形市	胴裏 (酵素精練)、白生地、先染反物、先染帯地
076	(株) 細安	福井県福井市	胴裏 (酵素精練)
077	京和きもの (株)	神奈川県厚木市	胴裏 (酵素精練)
078	(株) まるため	長野県長野市	胴裏 (トルマリン加工、パーリー加工)
079	(株) 小川屋	群馬県前橋市	胴裏 (トルマリン加工、灰汁浸加工)
080	(株) エムラ	山口県防府市	胴裏 (酵素精練)
081	(株) 荒井呉服店	東京都八王子市	胴裏 (酵素精練)
082	(株) 牛島屋	富山県富山市	胴裏 (酵素精練)、後染反物 (小紋)
083	(株) 谷呉服店	福岡県筑紫野市	胴裏 (酵素精練)
084	(株) 登美屋	岩手県北上市	胴裏 (パールトーン加工)
085	(株) 川平屋	愛知県豊田市	胴裏 (パールトーン加工)、後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
087	(株) 大丸松坂屋百貨店	東京都江東区	裏地 (胴裏、比翼地 (振袖用))、長襦袢地
088	西陣織工業組合	京都市上京区	マフラー、セーター、カーディガン、ショール、ネクタイ
089	(株) 綾の手 (旧 (株) あきやま)	宮崎県綾町	先染反物 (綾の手紬)、洋装品 (ショール、マフラー)
090	藤井紋 (株)	京都市中京区	後染反物 (色無地)
092	(有) 結城屋	兵庫県洲本市	白生地 (表地)
093	(株) ウメショウ	岐阜県瑞穂市	白生地 (表地)
095	(有) カシワギ	山梨県富士吉田市	寝具寝装品 (冬用・夏用・合用薄絹ふとん、ブランケット)、洋装品 (スーツ地、ネクタイ、服飾品 (スカーフ、ストール、シャツ))
097	(株) 平田組紐	東京都豊島区	帯締、帯締 (金銀糸が 5% を超えるもの)、羽織紐 (男物、女物)
098	(株) 菱健	京都市中京区	後染反物 (色無地)
099	西野 (株)	京都市上京区	帯締、帯締 (金銀糸が 5% を超えるもの)
101	(株) 猪井	新潟県長岡市	後染反物 (色無地)、後染帯地

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
102	(株) たちばな	新潟県新発田市	後染反物 (色無地)、後染帯地
103	(株) 丸富美	新潟県十日町市	後染反物 (色無地)
104	(有) 絹もの屋まつなが	新潟県三条市	後染反物 (色無地)
105	(株) 山正山崎	愛知県豊橋市	後染反物 (色無地、小紋 (変一越、紋意匠))
106	(有) こくぶん呉服店	福島県福島市	後染反物 (色無地)
107	(株) 染織近藤	岡山市北区	後染反物 (色無地、小紋 (変一越、紋意匠))
108	(株) 宮川呉服店	北海道湧別町	後染反物 (色無地、付下)
109	(株) 和らいふ	札幌市中央区	後染反物 (色無地)
110	(有) きものいなもと	大阪市天王寺区	後染反物 (色無地)
111	(株) 世きね	東京都中央区	後染反物
112	(株) 西陣まいづる	京都市上京区	先染帯地 (袋帯 (金銀糸が5%を超えるもの)、九寸帯 (金銀糸が5%を超えるもの)、紹九寸帯 (金銀糸が5%を超えるもの))
113	奥順 (株)	茨城県結城市	先染反物 (結城紬)、先染帯地 (結城紬)
114	りょうぜん天蚕の会	福島県伊達市	ショール (天蚕紬糸、天蚕ハイブリッド)
115	(有) 金屋	新潟県上越市	後染反物 (色無地)
116	(株) 鶴屋百貨店	熊本市中央区	胴裏 (酵素精練)、先染反物 (結城紬)
117	黄八丈めゆ工房	東京都八丈島	先染反物 (黄八丈)
118	京屋呉服店	長野県塩尻市	後染反物 (色無地)
119	(資) 車屋呉服店	横浜市南区	後染反物 (色無地、江戸小紋)、白生地 (表地)
120	宮崎 (株)	茨城県結城市	先染反物 (結城紬)
121	(有) 内海呉服店 きもの千歳屋	東京都世田谷区	白生地 (表地 (色無地、訪問着、紋意匠))
122	長島繊維 (株)	栃木県足利市	後染反物 (色無地、小紋、付下、訪問着)、後染帯地
123	(株) しょう美	広島市西区	後染反物 (色無地)
124	(資) 治田呉服店	群馬県富岡市	後染反物 (色無地)
125	(株) 丸十	大阪府東大阪市	後染反物 (小紋)、ニット (靴下)
126	(株) 竹田嘉兵衛商店	名古屋市緑区	胴裏 (酵素精練)
127	(有) 樋口屋京染店	埼玉県鴻巣市	白生地 (表地用 (紋意匠))
128	大門屋	福井県大野市	白生地 (牛首紬)、後染帯地 (牛首紬)、ショール (牛首紬)、先染反物 (飯田紬)、白生地着尺 (信州紬)
129	(株) 加藤萬	東京都中央区	和装小物 (帯揚げ、半衿)
130	(株) しゃらく	愛媛県新居浜市	後染反物 (小紋)
131	(資) 山中商店	名古屋市中区	後染反物 (小紋)
132	きもの処あだち	大阪府藤井寺市	後染反物 (小紋)
133	西川産業 (株)	東京都中央区	寝具寝装品 (掛布団)
134	繭工房華美	宮城県塩竈市	寝衣 (長肌着、短肌着)
136	(株) 和想	鳥取県鳥取市	後染反物 (小紋)
137	(株) 高島屋呉服店	島根県益田市	後染反物 (小紋)
138	富岡シルクブランド協議会	群馬県富岡市	ネクタイ、褌、マフラー (手織り)

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
139	(株) 丸年呉服店	石川県金沢市	後染反物 (小紋)
140	(株) 染織館	徳島県徳島市	後染反物 (小紋)
141	(株) 京ろまん	奈良県奈良市	後染反物 (小紋)、ニット (靴下)
142	五嶋 (株)	東京都文京区	帯締
143	(株) わふくや	浜松市中区	長襦袢地
144	(株) 布屋呉服店	静岡県富士宮市	胴裏 (トルマリン加工)、後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
145	(有) 明石屋	東京都調布市	後染反物 (色無地)、後染帯地
146	宮井 (株)	京都市下京区	風呂敷
147	(株) ナカノ	大分県大分市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠)、加賀友禅)
148	(株) 芦田呉服店	京都府綾部市	後染反物 (色無地、小紋 (変一越、紋意匠))
149	(株) 甲斐絹座	山梨県富士吉田市	ネクタイ、服飾品 (スカーフ、ストール、トランクス)、 パジャマ、袷紗
151	(株) 西松屋	兵庫県姫路市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
152	(株) 西尾呉服店	大阪市福島区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
153	勝山織物 (株)	京都市北区	先染帯地 (金銀糸が5%を超えるもの)
154	(有) 石川	群馬県みどり市	後染反物 (型友禅、羽二重色無地)、先染反物 (ジャガード織)
156	那覇伝統織物事業協同組合	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地、かりゆしウェア、服飾品 (ショール)
157	(株) ふじや	福岡県朝倉市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
158	きものおかだ	兵庫県香美町	後染反物 (小紋)
159	(株) J S	山梨県富士吉田市	寝具寝装品 (ふとん、ふとんカバー)、洋装品 (スーツ 地、コート地、スカート地、シャツ、ワンピース地)、 服飾品 (スカーフ、ストール、ネックカバー、アームカ バー、レッグカバー)
160	(株) マルシバ	東京都中央区	裏地 (胴裏)、和装小物 (袷紗)、ネクタイ、帯地 (白塩瀬)
161	(株) みつわ	大阪府大東市	後染反物 (小紋)
162	福続織物 (株)	福岡市西区	先染帯地 (本袋男帯、八寸名古屋帯)
163	(株) 大谷屋	新潟市中央区	白生地 (表地)
164	(株) 東京藤屋 (きものレディ着付け学院)	東京都品川区	白生地 (表地)
166	近江真綿振興会	滋賀県米原市	寝具寝装品 (布団、膝かけ)、服飾品 (ショール)
167	(株) にしむら	兵庫県西脇市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
168	(有) きものおおにし	大阪府東大阪市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
169	(株) コノエ (そめの近江)	東京都豊島区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))、ニット (靴下)
170	(株) つたや	大阪府枚方市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
171	(株) 京呉服小糸伸輔の店	熊本市東区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
172	(株) マエノ	茨城県石岡市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
173	(株) 本きもの松葉	大阪府富田林市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
174	(有) 山田呉服店	長野県諏訪市	白生地 (変り縮緬)、先染反物 (大島紬)
175	(株) 呉服のながいけ	長崎県南島原市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
176	(株) 京呉服平田	福井県福井市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
177	(株) 布四季庵ヨネオリ	山形県米沢市	先染反物 (置賜紬)、服飾品 (ストール)
178	奄美島絹推進協議会	鹿児島県龍郷町	先染反物 (大島紬)、先染帯地 (大島紬)
179	(株) 宮坂製糸所	長野県岡谷市	先染帯地 (八寸名古屋帯)
180	(有) シンセイ	長野県松本市	ニット (腹巻、靴下)
181	(株) 百花	横浜市中区	後染反物 (小紋 (変一越))
182	京呉服好一 (株)	京都市北区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
183	(株) パールトーン	京都市右京区	胴裏 (パールトーン加工)
184	きもの専科まさ井	兵庫県三木市	後染反物 (小紋 (変一越))
185	マテリアル ローブ 磨	東京都練馬区	後染反物 (小紋 (変一越))
186	(株) せんば呉服	兵庫県尼崎市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠)、訪問着)、先染反物 (絰着尺)、後染帯地
187	(株) 三越伊勢丹	東京都新宿区	白生地 (表地)、帯締、羽織紐、帯締 (金銀糸が5%を超えるもの)、ジャケット地
188	青山きもの (株) (青山きもの学院)	東京都港区	白生地 (表地、夏物表地)
189	ニット青木 (株)	東京都品川区	ニット (スーツ・パンツ、スーツ・スカート、ジャケット、アンサンブル、インナー)
190	渡豊工房	山形県山辺町	先染反物 (綾御召 (男物、女物)、市松綾御召 (草木染め)、もじり織 (草木染)、もじり織、裏地 (紬八掛、駒八掛、紬駒八掛、紬綾八掛))、服飾品 (先染ストール (綾織草木染、もじり織草木染))
191	(株) リンクピース	福岡市博多区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
192	(有) 新宮 (きもの宮下)	宮崎県宮崎市	後染反物 (小紋 (変一越))
193	アトリエ I T O 伊藤峯子	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地
194	遊生染織工房 築城則子	北九州市八幡東区	先染反物
195	杉浦晶子	愛知県高浜市	先染反物、先染帯地
196	(株) 夢工芸染の新井	東京都足立区	白生地 (変り縮緬)、先染反物 (大島紬)
197	(株) 嵯が野	埼玉県川越市	白生地 (変り縮緬)、先染反物 (大島紬)
198	(株) カインドウェア	東京都千代田区	服飾品 (ストール)、ネクタイ
199	(株) 新田	山形県米沢市	後染反物 (ぼかし着尺)
200	(株) ソーホー	京都市下京区	白生地 (紋意匠無地縮緬・紋意匠縮緬)、後染反物 (本加賀訪問着)、先染反物 (大島紬、御召)、先染帯地 (袋帯)、先染反物 (御召)
201	(株) すずのき	東京都品川区	後染反物 (訪問着・色無地)、白生地 (表地 (紋意匠))
202	メーカーズシャツ鎌倉 (株)	神奈川県鎌倉市	ニット (肌着)
203	(株) 丸本岩崎	北海道函館市	裏地 (胴裏絹)
204	(株) 緒方商店 (きもの心おがた)	愛媛県八幡浜市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
205	富士新幸 (株)	山梨県都留市	真綿布団
206	(有) 浅井ローケツ	京都市右京区	後染反物 (色無地・藍染)

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
207	(有) 呉服のうめね	北九州市小倉北区	白生地 (変一越)
208	(株) ADESSO (きもの工房一休)	神戸市中央区	白生地 (変一越)
209	森秀織物 (株)	群馬県桐生市	先染反物 (御召)
210	(株) 龍村美術織物	京都市中京区	先染帯地 (本袋帯 (金銀糸が5%を超えるもの))
211	(株) 長沼 (長沼静きもの学院)	東京都渋谷区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
212	(株) 国際商事	東京都板橋区	ショール
213	窪田織物 (株)	鹿児島県鹿児島市	先染反物 (大島紬、本場大島紬 (12 マルキ、15 マルキ))
214	村江菊絵 (菊江) (村江菊絵)	東京都目黒区	先染帯地、先染反物
215	片倉工業 (株)	東京都中央区	ニット (靴下)
216	村田捺染加工 (有)	群馬県桐生市	服飾品 (ストール)
217	(株) 京のきもの綾錦	京都市下京区	後染反物 (訪問着、小紋、色無地)
218	あや工房	沖縄県西原町	先染反物 (首里織)、先染帯地 (首里織)
220	万兵 (株)	名古屋市中区	白生地 (表地)
221	横山 (株)	京都市中京区	後染反物 (小紋・訪問着)
222	(株) カネヒサクリエーション	石川県金沢市	白生地 (表地)
223	柳晋哉	東京都世田谷区	先染反物、先染帯地
224	(株) 一声	京都市下京区	白生地 (表地)
225	(株) ヤマノホールディングス きもの事業本部	東京都渋谷区	後染反物 (小紋・訪問着)、白生地 (帯地、表地)
226	山口美術織物 (株)	京都市山科区	白生地 (表地・羽二重)
227	(株) 大醐	名古屋市中区	セリシン靴下、セリシン手袋
228	(株) 中忠商店	京都市上京区	セリシン靴下、セリシン手袋
229	(株) 帛撰	京都市北区	先染帯地 (名古屋帯、袋帯 (金銀糸が5%を超えるもの))
230	(株) 京朋	京都市中京区	白生地 (表地)
231	(有) 綵巧	京都市北区	先染反物 (御召)、先染帯地 (名古屋帯 (組帯))
232	ウライ (株)	京都市下京区	後染反物 (小紋)、後染帯地 (袋帯 (表地のみ))
233	大橋メリヤス	群馬県桐生市	服飾品 (ニットストール)
234	宮田織物 (株)	京都市北区	先染帯地 (袋帯 (金銀糸が5%を超えるもの))
235	(有) 中彦	京都市上京区	先染反物 (御袷 (五条袷))
236	大月俊幸	長野県安曇野市	先染帯地 (名古屋帯)、先染着尺 (信州紬)
237	久保原由佳理	長野県安曇野市	先染帯地 (名古屋帯)、先染着尺 (信州紬)
238	(株) やしま	広島県広島市	白生地 (表地 (紋意匠))
239	(株) 長谷川	京都市上京区	先染反物 (西陣お召)
240	永見 (株)	鳥取県米子市	白生地 (表地 (紋意匠))
241	京都和装 (株)	京都市下京区	白生地 (表地 (紋意匠))
242	(株) 前田源商店	山梨県富士吉田市	服飾品 (スカーフ、ストール)
243	近江真綿工房 原田	滋賀県米原市	寝具寝装品 (真綿ふとん (国産近江真綿ふとん))
244	昭和西川 (株)	東京都中央区	寝具寝装品 (真綿ふとん)
245	大迫織物 (株)	鹿児島県鹿児島市	先染反物 (大島紬)

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
246	玉城柳子	沖縄県南城市	先染反物(着尺(首里織))、先染帯地(首里織)
247	丸八生糸 (株)	京都市上京区	白生地 (表地)
248	(株) 高島織物	京都市北区	白生地 (表地)
249	くらしつむぐあとリエ	福井県坂井市	白生地(表地、帯地)、服飾品(ストール)
250	UGAA I	東京都世田谷区	洋装服地
251	石川県立津幡高等学校	石川県河北郡	白生地(牛首紬)、白生地(帯地(牛首紬))
252	合同会社COCON	大阪府四條畷市	寝具寝装品(シュラフ型シルクシート、ナイトキャップ、手袋、靴下)、シルクスリッパ
253	福和商事 (株)	東京都中央区	白生地 (表地)
254	(株) 錦	京都市左京区	洋装品 (ジャケット)
255	(株) 橋本絞店	群馬県太田市	絞り着尺

月日	活 動 内 容 等
1/10	新年賀詞交歓会 (東京都有楽町 蚕糸会館)
1/14	和文化・産業連携振興協議会 (農林水産省)
1/27	株式会社羽田未来総合研究所 代表取締役社長 大西 洋氏講演会 (東京都有楽町 蚕糸会館)
1/30	第 4 回有識者会議 (東京都有楽町 蚕糸会館)
2/5	第 10 回常勤理事会 (東京都有楽町 蚕糸会館)
2/5	第 3 回新たなビジネス潮流に関する WG (東京都有楽町 蚕糸会館)
2/14 ~ 26	「絹が生まれる場所」展 ―絹と人のこれまでとこれから― (横浜市 BankART KAIKO)
2/17	「和文化シンポジウム」(和文化・産業連携振興協議会主催) (農林水産省講堂)
2/20、21	国産生糸展示・商談会 「シルク時空をこえて」上映会 (東京都有楽町 蚕糸会館)
2/26	2024 年第 4 次純国産絹マーク審査委員会 (東京都有楽町 蚕糸会館)
2/28	第 5 回有識者会議 (東京都有楽町 蚕糸会館)
3/5	第 11 回常勤理事会 (東京都有楽町 蚕糸会館)
3/5	和装振興協議会 (経済産業省)
3/10	第 3 回持続的養蚕業確立検討会 (東京都有楽町 蚕糸会館)
3/11	第 3 回新薬剤に関する WG (東京都有楽町 蚕糸会館)

月日	活 動 内 容 等
3/13	養蚕調査農家及び県協議会等との情報交換会 (東京都有楽町 蚕糸会館)
3/14	「蚕糸の日」記念講演会 (東京都有楽町 蚕糸会館)
3/21	通常理事会・臨時評議員会 (東京都有楽町 蚕糸会館)
3/24	和文化・産業連携振興協議会 (農林水産省)

蚕糸絹関係博物館一覧

名 称	〒	住 所	電 話
野外博物館北海道開拓の村	004-0006	北海道札幌市厚別区厚別町小野幌 50-1	011-898-2692
ひころの里「シルク館」	986-0782	宮城県本吉郡南三陸町入谷字桜沢 442	0226-46-4310
原始布・古代織参考館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 16	0238-22-8141
米沢織物歴史資料館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 87	0238-23-3525
夕鶴の里資料館 語り部の館	992-0474	山形県南陽市漆山 2025 - 2	0238-47-5800
松ヶ岡開墾記念館	997-0152	山形県鶴岡市羽黒町松ヶ岡 29	0235-62-3985
公益財団法人致道（ちどう）博物館	997-0036	山形県鶴岡市家中新町 10 - 18	0235-22-1199
酒田市美術館	998-0055	山形県酒田市飯森山三丁目 17 - 95	0234-31-0095
かわまたおりもの展示館	960-1406	福島県伊達郡川俣町大字鶴沢字東 13 - 1	024-565-4889
結城市伝統工芸館	307-0001	茨城県結城市大字結城 3018 - 1	0296-32-7949
紬の里	307-0001	茨城県結城市結城 2515	0296-32-8002
本場結城紬郷土館	307-0000	茨城県結城市浦町 116	0296-32-2121
本場結城紬染織資料館「手緒里」	307-0001	茨城県結城市結城 12-2	0296-33-3111
佐野市郷土博物館	327-0003	栃木県佐野市大橋町 2047	0283-22-5111
おやま本場結城紬クラフト館	323-0023	栃木県小山市中央町 3-7-1 ロブレビル 1F	0285-32-6477
足利織物伝承館	326-0814	栃木県足利市通 3-2589	0284-22-3004
足利まちなか遊学館	326-0814	栃木県足利市通 1-2673-1	0284-41-8201
足利織姫神社	326-0817	栃木県足利市西宮町 3889	0284-22-0313
那須野が原博物館	329-2752	栃木県那須塩原市三島 5 - 1	0287-36-0949
高崎市歴史民俗資料館	370-0027	群馬県高崎市上滝町 1058	027-352-1261
群馬県立歴史博物館	370-1293	群馬県高崎市綿貫 992 - 1（群馬の森公園内）	027-346-5522
おかいてステーション	370-3401	群馬県高崎市倉渕町権田 5344 - 1235	027-340-6060
群馬県立日本絹の里	370-3511	群馬県高崎市金古町 888 番地の 1	027-360-6300
富岡製糸場	370-2316	群馬県富岡市富岡 1 - 1	0274-64-0005
前橋市蚕糸記念館	371-0036	群馬県前橋市敷島町 262 番地（敷島公園バラ園内）	027-231-9875
織物参考館“紫（ゆかり）”	376-0034	群馬県桐生市東 4 丁目 2 番 24 号	0277-45-3111
桐生織物記念館（桐生織物協同組合）	376-0044	群馬県桐生市永楽町 6 - 6	0277-43-2510
コノドント館みどり市大間々博物館	376-0101	群馬県みどり市大間々町大間々 1030	0277-73-4123
たくみの里	379-1418	群馬県利根郡みなかみ町須川 784	0278-64-2211
群馬県立世界遺産センター（セカイト）	370-2316	群馬県富岡市富岡 1450-1	0274-67-7821
片倉シルク記念館	360-0815	埼玉県熊谷市本石 2 丁目 135 番地	048-522-4316
ちちぶ銘仙館	368-0032	埼玉県秩父市熊木町 28-1	0494-21-2112
秩父ふるさと館	368-0044	埼玉県秩父市本町 3-1	0494-23-7300
きもの芸術館（一般財団法人国際文化きもの学会）	150-0002	東京都渋谷区渋谷 1-6-8 清水学園ビル 6F ～ 8F	03-3400-0286
文化学園服飾博物館	151-8529	東京都渋谷区代々木 3 - 22 - 7	03-3299-2387
調布市郷土博物館	182-0026	東京都調布市小島町 3 - 26 - 2	0424-81-7656
東京農工大学科学博物館	184-8588	東京都小金井市中町 2 - 24 - 16	042-388-7163
絹の道資料館	192-0375	東京都八王子市鎌水 989 - 2	0426-76-4064
桑都日本遺産センター 八王子博物館	192-0904	東京都八王子市子安町 4-7-1 サザンスカイタワー 3 階	042-622-8939

名 称	〒	住 所	電 話
町田市立博物館	194-0032	東京都町田市本町田 3562	042-726-7531
羽村市郷土博物館	205-0012	東京都羽村市羽 741	042-558-2561
シルク博物館	231-0023	横浜市中区山下町 1 番地シルクセンター内	045-641-0841
神奈川県立歴史博物館	231-0006	横浜市中区南仲通 5-60	045-201-0926
相模田名民家資料館	229-1124	相模原市緑区田名 4853 番 2 (大杉公園隣り)	042-761-7118
相模原市立博物館	252-0221	神奈川県相模原市中央区高根 3-1-15	042-750-8030
海老名市立郷土資料館「海老名市温故館」	243-0405	神奈川県海老名市国分南 1-6-36	046-233-4028
一般財団法人繊維産業会レインボープラザ(愛川繊維会館)	243-0307	神奈川県愛甲郡愛川町半原 4410	046-281-0356
愛川町郷土資料館	243-0307	神奈川県愛甲郡愛川町半原 5287 (県立あいかわ公園内)	046-280-1050
小千谷織物工房 小千谷織物同業協同組合	947-0028	新潟県小千谷市城内 1-8-25 小千谷市総合産業会館サンプラザ内	0258-83-2329
手織りの館	947-0028	新潟県小千谷市城内 1 - 8 - 25	0258-83-4800
十日町市博物館	948-0072	新潟県十日町市西本町 1	0257-57-5531
塩沢つむぎ記念館(織の文化館)	949-6408	新潟県南魚沼市塩沢 1227 - 14	0257-82-4888
白山工房(織りの資料館)	920-2501	石川県白山市白峰村ヌ 17	076-259-2859
はたや記念館ゆめおーれ勝山	911-0802	福井県勝山市昭和町 1 - 7 - 40	0779-87-1200
豊富郷土資料館	400-1513	山梨県中央市大鳥居 1619 - 1	055-269-3399
須坂市立博物館	382-0028	長野県須坂市臥竜 2 丁目 4 番 1 号臥竜公園内	026-245-0407
常田館(絹の資料館)	386-0018	長野県上田市常田 1 - 10 - 3 笠原工業(株)内	0268-22-1230
繊維学部資料館	386-8567	長野県上田市常田 3-15-1 信州大学繊維学部内	0268-21-5454
上田市立博物館	386-0026	長野県上田市二の丸 3 番 3 号(上田城跡公園内)	0268-22-1274
上田市丸子郷土博物館	386-0413	長野県上田市東内 2564 - 1	0268-42-2158
絹糸紡績資料館	386-0498	長野県上田市上丸子 1078 シナノケンシ(株)内	0268-41-1800
長野県立歴史館	387-0007	長野県千曲市大字屋代字清水、科野の里歴史公園内	026-274-2000
海野宿歴史民俗資料館	389-0518	長野県東御市本海野 1098	0268-64-1000
日本司法博物館(松本歴史の里)	390-0852	長野県松本市島立小柴 2196 - 1	0263-47-4515
岡谷蚕糸博物館(シルクファクトおかや)	394-0021	長野県岡谷市郷田 1 丁目 4 番 8 号	0266-23-3489
駒ヶ根シルクミュージアム	399-4321	長野県駒ヶ根市東伊那 482 番地	0265-82-8381
安曇野市天蚕センター	399-8301	長野県安曇野市穂高有明 3618 - 24	0263-83-3835
美濃加茂市民ミュージアム	505-0004	岐阜県美濃加茂市蜂屋町上蜂屋 3299 - 1	0574-28-1110
豊田市稲武郷土資料館ちゅうま	441-2524	愛知県豊田市黒田町南水別 713	0565-82-3439
豊橋市民俗資料収蔵室	440-0021	愛知県豊橋市多米町滝の谷 34-1-1	0532-63-2026
三重中央農協郷土資料館	515-2504	三重県津市一志町高野 1204 - 1	059-293-0010
手おりの里、金剛苑	529-1204	滋賀県愛知郡愛荘町蚊野外 514	0749-37-4131
織物文化館	601-1123	京都市左京区静市市原町 265 川島織物セルコン内	075-741-4120
西陣織会館	602-8216	京都市上京区堀川通り今出川南入	075-451-9231
(公財)手織技術振興財団・織成館	602-8482	京都市上京区浄福寺通上立売上る大黒町 693 番地	075-431-0020
千總ギャラリー	604-8166	京都市中京区御倉町 80 番地千總本社ビル 2 階	075-211-2531
絹の白生地資料館	604-8176	京都市中京区龍池町 448 - 2 伊と幸ビル	075-254-5884

名 称	〒	住 所	電 話
まゆ村	616-8384	京都市右京区嵯峨天龍寺造路町	075-882-0564
グンゼ博物苑	623-0011	京都府綾部市青野町 グンゼ（株）周辺敷地内	0773-43-1050
織元田勇	629-3104	京都府京丹後市網野町浅茂川 112 田勇機業（株）内	0772-72-0307
上垣守国（うえがきもりくに）養蚕記念館	667-0321	兵庫県養父市大屋町蔵垣 246 - 2	079-669-1580
デザイン・クリエイティブセンター神戸 (KIITO)	651-0082	神戸市中央区小野浜町 1-4	078-325-2201
西予市野村シルク博物館	797-1212	愛媛県西予市野村町野村 8 号 177 番地 1	0894-72-3710
蚕糸資料館	781-1301	高知県高岡郡越知町越知甲 1577 番地	0889-26-1002
藤村製絲記念館	781-6402	高知県安芸郡奈半利町乙 2630	0887-38-4711
美馬蚕糸会館	771-2107	徳島県美馬市美馬町谷口 5-1	0883-63-2502
アヤミハビル館	907-1801	沖縄県八重山郡与那国町与那国 2114	0980-87-2440

蚕糸絹関係機関ホームページ一覧

【行 政】

農林水産省
経済産業省

<http://www.maff.go.jp>
<http://www.meti.go.jp>

【蚕糸絹業関係団体】

(一社) 日本絹人織織物工業会
(一財) 日本真綿協会
丹後織物工業組合
西陣織工業組合
TAFS (東京織物卸商業組合)
KOMs (京都織物卸商業組合)
(公財) 京都和装産業振興財団
(一財) 伝統的工芸品産業振興協会
全国シルクビジネス協議会

<http://www.kinujinsen.com>
<http://www.mawata.or.jp>
<https://tanko.or.jp>
<https://nishijin.or.jp>
<https://www.tafs.or.jp>
<https://www.fashion-kyoto.or.jp>
<https://www.wasou.or.jp>
<https://kyokai.kougeihin.jp>
<https://japan-silk.org>

【大学・試験研究機関】

農業・食品産業技術総合研究機構
北海道大学 (応用分子昆虫学研究室)
宇都宮大学 (分子昆虫学研究室)
東京大学 (昆虫遺伝研究室)
東京農工大学 (蚕学研究室)
東京農工大学 (生体分子構造学分野)
名古屋大学 (資源昆虫学研究室)
信州大学繊維学部
京都工芸繊維大学 (応用生物学課程)
九州大学 (家蚕遺伝子開発分野)
九州大学 (昆虫ゲノム科学研究室)
群馬県蚕糸技術センター
群馬県繊維工業試験場
京都府繊維・機械金属振興センター
(地独) 京都市産業技術研究所
(公財) 衣笠繊維研究所

<https://www.naro.go.jp/index.html>
<https://www.agr.hokudai.ac.jp/r/lab/applied-molecular-entomology>
<https://shigen.mine.utsunomiya-u.ac.jp/insectbiotechnology>
<https://sites.google.com/view/igblab-ut-aba/top>
<https://web.tuat.ac.jp/~kaiko>
<https://sites.google.com/go.tuat.ac.jp/nakazawa-lab/home>
<https://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~yousan>
<https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/textiles>
<http://www.bio.kit.ac.jp>
<https://www.agr.kyushu-u.ac.jp/lab/kasan/insect/top.html>
<https://www.agr.kyushu-u.ac.jp/lab/igs>
<http://www.pref.gunma.jp/07/p14710007.html>
<https://www.tec-lab.pref.gunma.jp/textile>
<http://www.pref.kyoto.jp/oriki>
<http://www.tc-kyoto.or.jp>
<http://krf-textile.com>

【学 会】

日本シルク学会
(一社) 日本蚕糸学会
日本野蚕学会

<http://jssst.sakura.ne.jp>
<http://jsss.or.jp>
<https://jsws-yasan.com>

【博物館等】

(一財) シルクセンター国際貿易観光会館 シルク博物館
群馬県立日本絹の里
愛媛県西予市野村シルク博物館
東京農工大学科学博物館
駒ヶ根シルクミュージアム
岡谷蚕糸博物館 (シルクファクトおかや)
はたや記念館ゆめおーれ勝山

<https://www.silkcenter-kbkk.jp/museum/>
<https://www.nippon-kinunosato.or.jp>
<https://www.city.seiyo.ehime.jp/miryoku/silkhakubutsukan>
<https://www.tuat-museum.org>
<https://komagane-silk.com/>
<https://silkfact.jp>
<https://www.city.katsuyama.fukui.jp/hataya>

【博物館等】

美馬蚕糸館

<https://mimasanshikan.wixsite.com/mimasanshikan>

野外博物館 北海道開拓の村

<https://www.kaitaku.or.jp>

富岡製糸場

<https://www.tomioka-silk.jp/tomioka-silk-mill/>

群馬県立世界遺産センター

<https://worldheritage.pref.gunma.jp/whc/>

統計資料の年間掲載計画

＜国内＞	1月号	4月号	7月号	10月号
(1) 蚕糸絹業の概要	○	○	○	○
(2) 養蚕農家数	○	○	○	○
(3) 繭生産数量の推移	○	○	○	○
(4) 蚕期別、都府県別養蚕農家戸数		○		
(5) 蚕期別、都府県別繭生産数量		○		
(6) 蚕品種別蚕種製造数量の推移		○		
(7) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況	○	○	○	○
(8) 生糸の織度別生産数量の推移		○		○
(9) 絹需給の推移(生産量換算試算)	○	○	○	○
(10) 品目別・二次製品輸入数量(生糸量換算試算)		○		
(11) 製糸工場の原料繭需給	○	○	○	○
(12) 製糸工場の操業状況	○	○	○	○
(13) 生糸在庫数量の内訳	○	○	○	○
(14) 蚕糸関係品目別輸入状況		○		
(15) 生糸の原産国別輸入数量		○		○
(16) 絹糸の原産国別輸入数量		○		○
(17) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入数量と単価		○		○
(18) 絹織物生産数量	○	○	○	○
(19) 丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量	○	○	○	○
＜海外＞				
(1) 世界主要国の家蚕繭生産数量	○	○	○	○
(2) 世界主要国の家蚕生糸生産数量		○		
(3) 中国繭絲綢交易市場における各種シルク現物価格	○	○	○	○

統計資料目次

<国内>

(1) 蚕糸絹業の概要	46
(2) 養蚕農家数の推移	47
(3) 繭生産数量の推移	48
(4) 蚕期別、都府県別養蚕農家戸数	49
(5) 蚕期別、都府県別繭生産数量	50
(6) 蚕品種別蚕種製造数量の推移	51
(7) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況	52
(8) 生糸の織度別生産数量の推移	53
(9) 絹需給の推移（生糸量換算試算）	54
(10) 品目別・二次製品輸入数量（生糸量換算試算）	55
(11) 製糸工場の原料繭需給	56
(12) 製糸工場の操業状況	57
(13) 生糸在庫数量の内訳	58
(14) 蚕糸関係品目別輸入状況	59
(15) 生糸の原産国別輸入数量	60
(16) 絹糸の原産国別輸入数量	61
(17) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入数量と単価	62
(18) 絹織物生産数量	63
(19) 丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量	64

<海外>

(1) 世界主要国の家蚕繭生産数量	66
(2) 世界主要国の家蚕生糸生産数量	67
(3) 中国繭絲綢交易市場における各種シルク現物価格	68

一 資料・国内一

(1) 蚕糸絹業の概要

Outline of Sericultural, Silk-Reeling, and Silk Fabric Industry in Japan

項目 Item 暦年 Calendar Year	養蚕業 Sericultural Industry			製糸業 Silk-Reeling Industry			絹業 Silk Fabric Industry	
	養蚕農家 戸数 Number of Silk- Raising Farmer	収穫量 Cocoon Production	1戸当 収穫量 Cocoon Production per Farmer	生糸 生産量 Raw Silk Production	運転 工場数 Number of Mills	稼働率 Operation ratio	絹人織織機 設備台数 (保有台数) Number of Silk Loom	絹織物 生産量 Silk Fabric Production
	戸 Number	トン t	kg	千俵 1,000 Bale of 60kg	工場 Number	%	千台 1,000	千㎡ 1,000 sq. meters
2000	3,280	1,244	379	9.3	8	67	62.9	32,275
2005	1,591	626	393	2.5	10	62	43.7	19,816
2010	756	265	351	0.9	7	49	35.9	3,611
2011	627	220	351	0.7	7	52	34.7	3,152
2012	571	202	354	0.5	7	35	33.3	2,912
2013	486	168	346	0.4	9	35	32.0	2,940
2014	393	149	379	0.4	9	35	—	2,734
2015	368	135	367	0.4	8	30	—	2,316
2016	349	130	372	0.3	8	26	—	2,243
2017	336	125	372	0.3	8	28	—	2,195
2018	293	110	375	0.3	8	46	—	2,113
2019	264	92	348	0.3	8	36	—	1,939
2020	228	80	351	0.2	8	31	—	1,214
2021	186	61	328	0.2	7	20	—	1,319
2022	163	51	313	0.2	7	22	—	1,444
2023	146	45	308	0.2	7	33	—	1,242
2024	134	38	284	0.1	7	31	—	—
前年比 (%) 2024/2023	91.8	84.4	92.0	50.0	100.0	93.9	—	—

資料 ・ 2008年以前の養蚕業及び製糸業は、農林水産省調査によるものである。
・ 2009年以降の養蚕業は、全国農業協同組合連合会及び（一財）大日本蚕糸会調査、2011年以降は（一財）大日本蚕糸会調査である
・ 2009年以降の製糸業は、中央蚕糸協会及び（社）日本生糸問屋協会調査、2018年11月以降は（一財）大日本蚕糸会調査である。
・ 2008年以前の絹業は経済産業省調査であり、2009年以降絹業は（一社）日本絹人織織物工業会調査である。
（注）2006年以降の絹織物生産量は、絹紡織物を含む。
（注）製糸業の運転工場数及び稼働率は器械製糸工場の操業状況であるが、2002年以降はすべての製糸工場のものである。
Source: ・ Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (MAFF) (Sericultural and Silk-Reeling, before 2008)
・ National Federation of Agricultural Co-operative Associations and the Dainippon Silk Foundation (Sericultural Industry, after 2009). The Dainippon Silk Foundation (after 2011)
・ Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association (Silk-Reeling, after 2009) The Dainippon Silk Foundation (after Nov. 2018)
・ The Ministry of Economy Trade and Industry (Silk Fabric, before 2008). Japan Silk & Rayon Weaver's Association (after 2009)

(2) 養蚕農家数の推移

Farm households raising silk-worm

(単位：戸)
(Unit：number)

項 目 年 間 春 蚕 初秋蚕 晩秋蚕 暦 年 Item Annual total Spring silk-worm Early autumn silk-worm Late autumn silk-worm				
2000	3,280	2,970	2,170	2,700
2005	1,591	1,420	1,061	1,345
2010	756	650	494	637
2011	627	562	358	531
2012	571	514	319	462
2013	486	422	260	399
2014	393	359	230	328
2015	368	323	221	313
2016	349	310	209	310
2017	336	307	201	280
2018	293	254	179	262
2019	264	233	153	224
2020	228	205	129	188
2021	186	161	98	156
2022	163	146	89	142
2023	146	126	78	130
2024	134	122	74	113
前年比(%)				
2024/2023	91.8	96.8	94.9	86.9

資料：農林水産省統計情報部（～2001年） 全国農業協同組合連合会（2002年～2004年）

農林水産省生産局（2005年～2008年）（一財）大日本蚕糸会（2009年～）

Source：The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).

National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004).

The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～2008).

The Dainippon Silk Foundation (2009～).

(3) 繭生産数量の推移 Cocoon Production

項 目 Item 暦 年 Calendar Year	年 計 Annual total				1戸当り収繭量 Cocoon production per farm household raising silk-worm			
	年 間 Annual total	春 蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 Early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm	年 間 Annual total	春 蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 Early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm
	t	t	t	t	kg	kg	kg	kg
2000	1,244	500	320	424	379	169	148	157
2005	626	243	165	218	396	171	156	162
2010	265	107	60	98	351	165	121	154
2011	220	95	49	76	351	169	136	143
2012	202	79	50	73	354	155	156	159
2013	168	61	41	67	346	145	158	168
2014	149	55	36	58	379	153	157	176
2015	135	49	32	54	368	151	147	174
2016	130	47	32	50	372	153	155	162
2017	125	47	29	49	372	153	144	175
2018	110	41	24	46	375	161	134	176
2019	92	35	22	35	348	150	144	156
2020	80	31	19	30	351	151	147	160
2021	61	22	15	24	328	137	153	154
2022	51	20	13	18	313	137	146	127
2023	45	17	11	17	308	135	141	131
2024	38	16	10	13	284	131	135	115
前年比 (%) 2024/2023	86.1	94.5	88.9	76.3	92.2	97.0	95.7	87.8
2024年 構成比 (%)	100.0	40.6	25.6	33.8				

資料：農林水産省統計情報部（～2001年） 全国農業協同組合連合会（2002年～2004年）

農林水産省生産局（2005年～2008年） （一財）大日本蚕糸会（2009年～）

Source：The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).

National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004).

The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～2008).

The Dainippon Silk Foundation (2009～).

(4) 蚕期別、都府県別養蚕農家戸数

Farm households raising silk-worm by prefectures

(単位：戸、%)

都府県名	春蚕期			初秋蚕期			晩秋蚕期			年 間		
	2023年 (R5)	2024年 (R6)	前年対比	2023年 (R5)	2024年 (R6)	前年対比	2023年 (R5)	2024年 (R6)	前年対比	2023年 (R5)	2024年 (R6)	前年対比
岩手県	4	2	50.0	3	2	66.7	4	3	75.0	4	3	75.0
宮城県	7	7	100.0	6	6	100.0	9	8	88.9	10	10	100.0
山形県	2	2	100.0	-	1	-	2	2	100.0	2	2	100.0
福島県	11	12	109.1	10	11	110.0	11	10	90.9	12	12	100.0
茨城県	3	3	100.0	2	3	150.0	3	2	66.7	3	4	133.3
栃木県	15	15	100.0	12	10	83.3	16	13	81.3	16	15	93.8
群馬県	45	48	106.7	27	27	100.0	53	47	88.7	55	53	96.4
埼玉県	9	7	77.8	7	5	71.4	7	7	100.0	9	7	77.8
千葉県	4	3	75.0	1	2	200.0	4	3	75.0	4	3	75.0
東京都	1	1	100.0	-	-	-	-	1	-	1	1	100.0
山梨県	1	1	100.0	-	-	-	-	-	-	1	1	100.0
長野県	6	3	50.0	3	2	66.7	6	4	66.7	9	5	55.6
岐阜県	4	5	125.0	-	-	-	4	3	75.0	6	5	83.3
愛知県	1	1	100.0	-	-	-	-	-	-	1	1	100.0
滋賀県	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
愛媛県	8	8	100.0	5	5	100.0	8	7	87.5	8	8	100.0
熊本県	2	2	100.0	-	-	-	2	1	50.0	2	2	100.0
宮崎県	2	2	100.0	2	-	-	1	2	200.0	2	2	100.0
全国計	126	122	96.8	78	74	94.9	130	113	86.9	146	134	91.8

資料：（一財）大日本蚕糸会

Source: The Dainippon Silk Foundation

(5) 蚕期別、都府県別繭生産数量 Cocoon production by prefectures

(単位 : kg、%)

都府県等	春 蚕 期			初 秋 蚕 期			晩 秋 蚕 期			年 間		
	2023年 (R5)	2024年 (R6)	前年比 (%)	2023年 (R5)	2024年 (R6)	前年比 (%)	2023年 (R5)	2024年 (R6)	前年比 (%)	2023年 (R5)	2024年 (R6)	前年比 (%)
岩手県	246.2	170.2	69.1	247.1	166.2	67.3	442.8	307.5	69.4	936.1	643.9	68.8
宮城県	619.1	558.0	90.1	386.0	277.7	71.9	686.1	542.1	79.0	1,691.2	1,377.8	81.5
山形県	324.0	581.6	179.5	-	89.3	-	469.6	560.8	119.4	793.6	1,231.7	155.2
福島県	1,893.3	2,070.9	109.4	2,095.9	2,237.0	106.7	2,588.5	2,503.5	96.7	6,577.7	6,811.4	103.6
茨城県	356.0	259.2	72.8	164.2	139.1	84.7	271.0	89.1	32.9	791.2	487.4	61.6
栃木県	2,750.7	3,147.0	114.4	2,044.7	1,595.6	78.0	3,264.5	2,099.3	64.3	8,059.9	6,841.9	84.9
群馬県	6,403.4	5,708.2	89.1	4,446.3	3,980.0	89.5	6,991.8	4,984.7	71.3	17,841.5	14,627.9	82.0
埼玉県	1,341.7	883.3	65.8	635.2	444.1	69.9	970.8	631.1	65.0	2,947.7	1,958.5	66.4
千葉県	443.6	402.9	90.8	148.6	126.2	84.9	412.5	255.3	61.9	1,004.7	784.4	78.1
東京都	37.9	37.4	98.7	-	-	-	-	37.1	-	37.9	74.5	196.6
山梨県	285.0	250.0	87.7	-	-	-	-	-	-	285.0	250.0	87.7
長野県	407.8	197.5	48.4	311.4	94.0	30.2	265.5	182.9	68.9	984.7	474.4	48.2
岐阜県	251.8	272.3	108.1	-	-	-	62.5	52.6	84.2	314.3	324.9	103.4
愛知県	29.1	33.0	113.4	-	-	-	-	-	-	29.1	33.0	113.4
滋賀県	11.0	-	-	-	-	-	-	-	-	11.0	-	0.0
愛媛県	944.6	842.1	89.1	557.5	698.9	125.4	534.9	661.8	123.7	2,037.0	2,202.8	108.1
熊本県	104.0	111.6	107.3	-	-	-	77.0	47.4	61.6	181.0	159.0	87.8
宮崎県	73.4	82.0	111.7	39.0	-	-	25.0	62.0	248.0	137.4	144.0	104.8
全国計	16,522.6	15,607.2	94.5	11,075.9	9,848.1	88.9	17,062.5	13,017.2	76.3	44,661.0	38,472.5	86.1

資料：(一財)大日本蚕糸会

Source: The Dainippon Silk Foundation

(6) 蚕品種別蚕種製造数量の推移
Production by Sort of Silk-Worm Eggs

Item \ Year	2021年 (令和3年)		2022年 (令和4年)		2023年 (令和5年)		2024年 (令和6年)	
	箱 box	割合 rate %	箱 box	割合 rate %	箱 box	割合 rate %	箱 box	割合 rate %
錦 秋 × 鐘 和	1,630	36.3	1,480	32.8	1,140	31.3	915	25.4
春 嶺 × 鐘 月	884	19.7	704	15.6	680	18.7	600	16.6
ぐ ん ま 2 0 0	616	13.7	653	14.5	492	13.5	442	12.3
松 岡 姫	55	1.2	40	0.9	70	1.9	340	9.4
春嶺1号 × 鐘月1号	220	4.9	220	4.9	165	4.5	321	8.9
錦秋1号 × 鐘和1号	339	7.6	427	9.5	380	10.4	264	7.3
な つ こ	153	3.4	281	6.2	92	2.5	177	4.9
緑 繭 2 号	106	2.4	157	3.5	83	2.3	108	3.0
白 繭 細 1 号	21	0.5					77	2.1
新 小 石 丸	122	2.7	132	2.9	81	2.2	62	1.7
かい・りよ × あけ・ぼの う	68	1.5	84	1.9	60	1.6	56	1.6
小 石 丸	48	1.1	101	2.2	80	2.2	39	1.1
朝 ・ 日 × 東 ・ 海	28	0.6	22	0.5	13	0.4	24	0.7
太 平 × 長 安					11	0.3	21	0.6
ぐ ん ま 黄 金	12	0.3	11	0.2	16	0.4	20	0.6
ぐ ん ま 細	71	1.6	80	1.8	65	1.8	20	0.6
プ ラ チ ナ ボ ー イ	41	0.9	34	0.8	32	0.9	20	0.6
秋 光 × 竜 白							18	0.5
い ろ × ど り							14	0.4
セ ヴ ェ ン ヌ	4	0.1	2	0.0	8	0.2	11	0.3
プラチナボーイ中細							11	0.3
青 熟 × C5・505	10	0.2	7	0.2	5	0.1	10	0.3
玉 小 石	17	0.4	28	0.6	19	0.5	8	0.2
黄 白	8	0.2	8	0.2	8	0.2	8	0.2
ひ た ち × に し き							7	0.2
奄 美 黄 金	10	0.2	10	0.2	6	0.2	6	0.2
青 熟 × C5・C6	5	0.1	6	0.1	10	0.3	4	0.1
N5 ・ N6 × T Y 4 0	3	0.1	3	0.1	3	0.1	2	0.1
お り ひ め	9	0.2	18	0.4	81	2.2		
白 麗					40	1.1		
極 細 3 号	9	0.2						
合 計 Total	4,489	100.0	4,508	100.0	3,640	100.0	3,605	100.0

資料: (一財)大日本蚕糸会

Source : The Dainippon Silk Foundation

備考: 「セヴェンヌ」は2023年に「MCS107×セヴェンヌ白」として表記されていたものである。

Note: “Cevennes” was described in 2023 as “MCS107 x Cevennes White”.

(7) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況

Raw Silk Supply / Demand Balance and Import/Export of Silk Yarn and Silk Fabric

項目 Item 年 月 Year & Month	生 糸 Raw Silk					絹 糸 Silk Yarn		絹 織 物 Silk Fabrics	
	生産数量	輸入数量	輸出数量	国内引渡数量	期末在庫数量	輸入数量	輸出数量	輸入数量	輸出数量
	Production (A)	Imports (B)	Exports (C)	Domestic Deliveries (D)	Ending Stocks (E)	Imports (F)	Exports (G)	Imports (H)	Exports (I)
暦 年 Calendar Year	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	1000SM	1000SM
2015	378	6,479	0	7,194	1,410	14,051	302	5,468	5,085
2016	317	6,548	0	6,869	1,406	12,094	177	5,207	4,940
2017	339	7,560	1	7,557	1,747	14,560	245	4,897	4,785
2018	339	5,038	1	5,793	1,330	11,092	213	4,151	4,854
2019	269	4,852	4	5,018	1,429	10,920	165	3,893	4,750
2020	203	2,443	0	3,009	1,066	6,226	167	2,551	3,635
2021	160	3,067	0	3,425	868	6,136	144	2,753	3,850
2022	168	3,646	1	3,754	927	7,945	182	2,803	3,726
2023	154	2,936	0	r3,158	859	7,495	137	2,515	3,213
2024	131	2,763	0	r2,882	871	6,251	177	2,221	3,005
2023 - 1	13	271	0	345	866	650	10	209	182
2	10	179	0	270	785	309	10	118	285
3	14	295	0	272	822	705	15	221	316
4	17	—	0	142	697	514	9	222	292
5	14	460	0	504	667	742	2	221	289
6	15	221	0	126	777	791	12	205	291
7	11	218	0	280	726	578	23	230	258
8	11	354	0	290	801	742	6	227	251
9	10	198	0	221	788	681	14	216	257
10	11	218	0	193	824	599	20	224	265
11	12	364	0	382	818	658	10	214	255
12	16	157	0	132	859	526	6	208	272
2024 - 1	11	234	0	223	881	492	6	262	203
2	13	290	0	263	921	438	12	139	241
3	10	335	0	343	923	352	20	143	284
4	8	—	0	22	909	557	13	220	262
5	11	366	0	426	860	545	4	212	322
6	10	196	0	177	889	351	25	213	247
7	15	352	0	512	744	746	7	225	249
8	12	170	0	121	805	507	26	164	210
9	14	226	0	r226	819	516	3	213	245
10	8	158	0	82	903	488	31	184	253
11	10	284	0	290	907	702	18	183	251
12	9	151	0	196	871	557	14	147	237
2025 - 1	13	206	0	276	814	513	20	205	161

資料：(A) (C) (D) 中央蚕糸協会（2012.12～2018.10）（一財）大日本蚕糸会（2018.11～）(B) (F) (G) (H) (I) 財務省関税局

備考：1. 国内引渡数量(D)={前月在庫数量+(A)+(B)}-{(C)+(E)}。

2. kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

Source：(A) (C) (D) (E) Central Raw Silk Association（2012.12～2018.10）. The Dainippon Silk Foundation（2018.11～）

(B) (F) (G) (H) (I) The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks：1. Domestic deliveries(D)={Stock at end of the previous month+(A)+(B)}-{(C)+(E)}.

2. Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(8) 生糸の織度別生産数量の推移 Raw Silk Production by Sizes

(単位：60kg俵)
(Unit：Bales of 60kg)

項目 Item 年月 Year & Month	生糸					
	計	18デニール以下	21デニール	27デニール	31デニール	その他
	Total	17/19or 17/19 finer	20/22	26/28	30/32	Others
暦年						
Calendar Year						
2015	378	0	146	86	36	110
2016	317	0	98	103	38	78
2017	339	0	107	95	53	84
2018	339	0	106	104	65	63
2019	269	1	102	46	30	90
2020	203	1	51	76	4	71
2021	160	0	39	52	10	59
2022	168	0	38	50	12	68
2023	154	0	43	36	18	57
2024	131	0	40	35	4	52
2023 - 1	13	—	3	3	2	5
2	10	—	0	4	4	2
3	14	—	2	5	4	3
4	17	—	3	2	2	10
5	14	—	5	4	1	4
6	15	—	5	3	0	7
7	11	—	6	2	0	3
8	11	—	3	5	0	3
9	10	—	5	1	2	2
10	11	—	5	2	0	4
11	12	—	5	3	0	4
12	16	—	1	2	1	12
2024 - 1	11	—	5	2	1	3
2	13	—	3	3	2	5
3	10	—	2	4	0	4
4	8	—	2	2	0	4
5	11	—	1	1	0	9
6	10	—	4	1	1	4
7	15	—	6	5	0	4
8	12	—	5	4	0	3
9	14	—	5	6	0	3
10	8	—	3	2	0	3
11	10	—	2	2	0	6
12	9	—	2	3	0	4
2025 - 1	13	—	5	2	1	5

資料：中央蚕糸協会 (2010.4～2018.10) (一財) 大日本蚕糸会 (2018.11～)

備考：kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

Source：Central Raw Silk Association (2010.4～2018.10).The Dainippon Silk Foundation (2018.11～)

Remarks：Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(9) 絹需給の推移（生糸量換算試算）

Silk Supply and Demand Balance (Raw Silk Value Estimation)

(単位：千俵)

(Unit: 1,000Bales of 60kg)

項目 Item 曆年 Calendar Year	供給計 Supply Total ①								需要計 Demand Total ②=①-④							期末 在庫 Ending Stocks ④
	期初 在庫 Opening Stocks	生 産 Produc- tion	輸 入 Import					輸 出 Export					内 需 Domestic Demand ②-③			
			計 Total	生 糸 Raw Silk	絹 糸 Silk Yarn	織 物 Fabrics	二 次 The Second	計 ③ Total	生 糸 Raw Silk	絹 糸 Silk Yarn	織 物 Fabrics	二 次 The Second				
2000	376	119	9	248	39	32	28	149	263	16	0	0	14	2	247	113
2005	354	85	3	266	22	33	30	181	270	27	4	1	21	1	243	84
2010	225	47	1	177	12	16	16	133	182	16	0	0	15	1	166	43
2011	227	43	1	183	9	18	14	142	180	16	0	0	15	1	164	47
2012	230	47	1	182	10	16	14	142	184	15	0	0	14	1	169	46
2013	248	46	0	202	9	16	13	164	203	14	0	0	13	1	189	45
2014	225	45	0	180	8	15	12	145	180	14	0	0	13	1	166	45
2015	221	45	0	176	6	14	11	145	176	17	0	0	12	5	159	45
2016	240	45	0	195	7	12	14	162	195	15	0	0	9	6	180	45
2017	239	45	0	194	8	15	9	162	194	21	0	0	11	10	172	45
2018	205	45	0	160	5	11	8	135	160	26	0	0	10	16	134	45
2019	206	45	0	161	5	11	8	137	161	25	0	0	10	15	136	45
2020	182	45	0	137	2	6	6	123	137	27	0	0	8	19	110	45
2021	175	45	0	130	3	6	6	115	130	24	0	0	8	16	106	45
2022	173	45	0	128	4	8	6	110	128	22	0	0	8	14	106	45
2023	166	45	0	121	3	7	6	105	121	20	0	0	7	13	101	45
2024	158	45	0	113	3	6	5	99	113	11	0	0	7	4	102	45
前年比 (%) 2024/ 2023	95	100	—	93	100	86	83	94	93	55	—	—	100	31	101	100

資料：蚕糸業需給・価格動向隔月報・繊維統計月報・日本貿易月報

備考：2013年から期末在庫を45千俵とする。

Source: "Silk balance and price situation monthly", "Trade Statistics"

(10) 品目別・二次製品輸入数量（生糸量換算試算）

Breakdown of Silk Second Products Imports(Raw Silk Value Estimation)

(単位：千俵)
(Unit: 1,000Bales of 60kg)

項目 Item		暦年 Calendar Year	2020	2021	2022	2023	2024	前年比(%) y/y	構成比(%) ratio
布 は く 製 Product made in cloth	男子用外衣類 Men's upper garments		1.1	0.8	0.6	0.6	0.4	66.7	0.4
	女子用外衣類 Women's upper garments		78.4	69.3	63.4	59.5	53.8	90.4	54.4
	うちブラウス Blouse of the inside		0.6	0.8	0.5	0.4	0.4	100.0	0.4
	男子用下着・寝具衣料 Men's underwear・bedding cloth		1.8	1.8	2.2	3.8	3.6	94.7	3.6
	女子用下着・寝具衣料 Women's underwear・bedding cloth		20.3	21.1	20.5	20.0	19.3	96.5	19.5
	ハンカチ Handkerchief		0.1	0.1	0.2	0.2	0.1	50.0	0.1
	ショール、スカーフ類 Shawl, scarves		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—	—
	ネクタイ類 Ties		3.3	3.0	4.1	3.2	2.5	78.1	2.5
	メリヤス、クロセス編物 Knit.kurose knitting		3.9	4.4	4.6	4.4	5.1	115.9	5.2
	その他の洋装類 Other western clothes		11.5	10.8	11.0	10.6	10.2	96.2	10.3
洋装類計 Western clothes subtotal			120.3	111.4	106.5	102.2	95.1	93.1	96.2
和装類計 Japanese clothes subtotal			0.9	0.9	1.0	0.7	0.7	100.0	0.7
うち絹製の帯小物等 Silk obi accessorys of the inside			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—	—
その他 Others			2.0	2.2	2.3	2.6	3.1	119.2	3.1
合 計 Total			123.2	114.5	109.8	105.4	98.9	93.8	100.0

資料：財務省「日本貿易月報」

注）：ラウンドにより合計が一致しないことがある。

Source：The Customs Bureau, Ministry of Finance “Trade Statistics”

Note：Total may not added up due to round off.

(11) 製糸工場の原料繭需給

Balance of Cocoons as Raw Materials by Reeling Mills (単位：生繭. t)

(Unit: Ton by fresh weight)

年 月 Year & Month	項 目 Item	総 計 Grand Total		
		受入数量 Receipts	消費数量 Put in Process	期末在庫数量 Ending Stocks
暦 年 Calendar Year				
2015		116	159	115
2016		115	110	120
2017		103	120	103
2018		92	117	78
2019		89	97	70
2020		72	73	69
2021		55	57	67
2022		46	59	54
2023		43	50	37
2024		39	46	27
2023 -	1	0	4	49
	2	0	4	44
	3	2	5	41
	4	0	5	37
	5	0	4	33
	6	9	5	34
	7	10	4	40
	8	3	3	40
	9	1	3	38
	10	9	4	43
	11	3	4	42
	12	1	6	38
2024 -	1	1	4	35
	2	0	4	31
	3	0	4	27
	4	0	3	24
	5	3	3	24
	6	8	4	25
	7	10	6	29
	8	3	4	27
	9	1	5	23
	10	13	3	33
	11	0	4	29
	12	1	3	27
2025 -	1	1	5	23

資料：中央蚕糸協会 (2012. 12～2018. 10) (一財) 大日本蚕糸会 (2018. 11～)

備考：1. 本表は上繭及び玉屑繭の合計である。

2. 受入数量=本月末在庫数量+消費数量-前月末在庫数量。

Source：Central Raw Silk Association (2012. 12～2018. 10). The Dainippon Silk Foundation (2018. 11～)

Remarks：1. This table includes reelable, doupion and waste cocoons.

2. Receipts=(Ending stocks of the current month)+(put in process)-(Ending stocks of the preceding month).

(12) 製糸工場の操業状況 Activities of Reeling Mills

年 月 Year & Month	項 目 Item	運 転工場数 Operating Reeling Mills	設 備 数(台) Reeling Machines		運 転 率 (%) Operating Ratio	操業日数 Days Operated	従業者数 Number of Workers
			運 転可能 Operable	運 転 Operating			
暦 年 Calendar Year							
	2015	8	110	33	30	263	53
	2016	8	110	29	26	267	55
	2017	8	110	31	28	266	59
	2018	8	74	34	46	253	57
	2019	8	74	27	36	239	51
	2020	8	74	23	31	218	48
	2021	7	74	15	20	214	43
	2022	7	64	14	22	230	41
	2023	7	44	15	34	235	41
	2024	7	44	13	31	265	34
2023 –	1	7	44	15	34	16	42
	2	7	44	16	36	17	40
	3	7	44	17	39	21	42
	4	7	44	15	34	21	34
	5	7	44	15	34	21	34
	6	7	44	17	39	21	44
	7	7	44	15	34	22	44
	8	7	44	12	27	16	41
	9	7	44	12	27	19	41
	10	7	44	13	30	22	41
	11	7	44	16	36	20	41
	12	7	44	13	30	19	41
2024 –	1	7	44	14	32	17	41
	2	7	44	13	30	20	41
	3	7	44	13	30	19	41
	4	7	44	9	20	20	40
	5	7	44	12	32	19	40
	6	7	44	15	34	21	43
	7	7	44	17	39	22	43
	8	7	42	18	43	17	20
	9	7	42	12	29	31	20
	10	7	42	13	31	30	20
	11	7	42	10	24	29	20
	12	7	42	13	31	20	38
2025 –	1	7	42	17	40	20	38

資料：中央蚕糸協会(2012.12～2018.10) (一財)大日本蚕糸会 (2018.11～)

備考：1. 設備数中の運転可能及び運転台数は毎月の算術平均である。

2. 運転率は運転可能台数に対する運転台数の比率である。

3. 従業者数は期末現在の在籍従業員数である。

Source : Central Raw Silk Association(2012.12～2018.10). The Dainippon Silk Foundation (2018.11～)

Remarks : 1. The number of operable and operating reeling machines is arithmetic means of monthly figures.

2. Operating ratio means ratio of operating machines in operable machines.

3. Number of workers are those on payroll as of end of period.

(13) 生糸在庫数量の内訳 Breakdown of Raw Silk Stocks

(単位：60kg俵)
(Unit: Bales of 60kg)

項目 Item 年 月 Year & Month	計	製糸工場	生糸市場外 売買業者	生糸輸出入業者
暦 年 Calendar Year	Total	Filatures Mills	Domestic Dealers	Ex and Importers
2015	1,410	94	1,316	
2016	1,406	130	1,276	
2017	1,747	156	1,591	
2018	1,330	230	1,100	
2019	1,429	238	1,191	
2020	1,066	178	888	
2021	868	170	698	
2022	927	127	800	
2023	859	144	715	
2024	871	128	743	
2023 - 1	866	129	737	
2	785	125	660	
3	822	131	691	
4	737	138	599	
5	667	138	529	
6	777	143	634	
7	726	142	584	
8	801	139	662	
9	788	135	653	
10	824	137	687	
11	818	140	678	
12	859	144	715	
2024 - 1	881	138	743	
2	921	138	783	
3	923	138	785	
4	909	133	776	
5	860	133	727	
6	889	136	753	
7	744	138	606	
8	805	137	668	
9	819	137	682	
10	903	130	773	
11	907	130	777	
12	871	128	743	
2025 - 1	814	128	686	

資料：中央蚕糸協会(2012.12～2018.10) (一財)大日本蚕糸会(2018.11～)

Source: Central Raw Silk Association (2012.12～2018.10). The Dainippon Silk Foundation (2018.11～)

(14) 蚕糸関係品目別輸入状況
Breakdown of Silk-Related Products Imports

	単位 Unit	2019	2020	2021	2022	2023	2024	前年比 (%) 2024/2023
生糸・玉糸計 Raw Silk and Doupion Silk	俵 Bales of 60kg	4,852	2,443	3,067	3,646	2,936	2,763	94.1
絹糸 Silk Yarn	俵 Bales of 60kg	10,920	6,226	6,136	7,945	7,495	6,251	83.4
野蚕糸 Wild Raw Silk	俵 Bales of 60kg	22	12	18	11	28	22	78.6
繭 Cocoon	kg	5,000	3,400	2,400	2,000	400	1,400	350.0
くず繭 Waste Cocoon	kg	982	1,818	5,274	2,536	857	2,910	339.6
その他の絹くず Other Silk Waste	kg	24,629	47,904	114,521	62,480	49,794	40,608	81.6
絹のくず計 Silk Waste Total	kg	25,611	49,722	119,795	65,016	50,651	43,518	85.9
絹紡糸 Spun silk yarn from silk waste other than noil	kg	251,731	180,505	234,643	234,118	177,869	149,263	83.9
絹紡細糸 Spun silk yarn from noil silk	kg	123,741	109,845	131,126	151,494	112,902	79,512	70.4
絹織物 Silk Fabrics	m ²	3,893,201	2,551,036	2,753,029	2,803,182	2,514,930	2,306,652	91.7

資料：財務省関税局

Source：The Customs Bureau, Ministry of Finance

(15) 生糸の原産国別輸入数量
Raw Silk Imports

(単位：60 k g 俵)
(Unit: Bales of 60kg)

国 名 Country	計 Total	中国 China	ブラジル Brazil	ベトナム Vietnam	タイ Thailand	その他 Others
年 月 Year & Month						
暦 年 Calendar Year						
2015	6,479 (58)	5,569 (49)	887 (9)	20	2	—
2016	6,546 (52)	5,378 (44)	1,142 (8)	24	2	—
2017	7,560 (68)	6,008 (62)	1,456 (5)	91	2	1
2018	5,038 (51)	3,484 (46)	1,446 (5)	50	59	—
2019	4,852 (67)	3,620 (51)	1,228 (13)	—	3 (3)	—
2020	2,443 (30)	1,294 (25)	1,145 (5)	—	—	4
2021	3,067 (31)	1,852 (25)	1,182 (5)	—	—	—
2022	3,646 (45)	2,402 (44)	1,222	—	22 (1)	—
2023	2,936 (52)	1,880 (52)	986	50	19	—
2024	2,763 (74)	1,912 (74)	844	—	7	—
2023 - 1	271 (10)	117 (10)	154	—	—	—
2	179	111	68	—	—	—
3	295 (5)	253 (5)	40	—	1	—
4	—	—	—	—	—	—
5	460	231	229	—	1	—
6	221	170	—	50	1	—
7	218	120	87	—	10	—
8	354 (10)	264 (10)	87	—	3	—
9	198 (10)	132 (10)	66	—	—	—
10	218 (5)	163 (5)	55	—	—	—
11	364 (11)	253 (11)	111	—	—	—
12	157	65	89	—	3	—
2024 - 1	234 (2)	234 (2)	—	—	—	—
2	290 (14)	130 (14)	161	—	—	—
3	335	325	10	—	—	—
4	—	—	—	—	—	—
5	366	250	116	—	—	—
6	196 (12)	103 (12)	93	—	—	—
7	352 (9)	211 (9)	140	—	—	—
8	170 (11)	75 (11)	95	—	—	—
9	226	220	—	—	6	—
10	158 (2)	75 (2)	84	—	—	—
11	284 (13)	233 (13)	50	—	1	—
12	151 (10)	55 (10)	95	—	—	—
2025 - 1	206 (5)	163 (5)	43	—	—	—

資 料：財務省関税局

備考：1. kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。

2. () 書きは、玉糸の輸入数量で内数である。

Source：The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks：1. Country volume may not add up the total volume due to round off.

2. Figures in parenthesis indicate the break down for doupion silk imports.

(16) 絹糸の原産国別輸入数量
Silk Yarn Imports

(単位 : 60kg俵)
(Unit : Bales of 60kg)

年 月 Year & Month	国 名 Country	計 Total	中 国 China	ベトナム Vietnam	イタリア Italy	アメリカ USA	ブラジル Brazil	その他 Others
暦 年 Calendar Year								
2015		14,051	7,928	5,586	4	0	531	2
2016		12,094	7,289	4,074	16	0	711	4
2017		14,560	8,431	5,256	10	0	862	0
2018		11,092	6,217	4,031	10	0	802	32
2019		10,920	6,658	3,489	16	—	757	1
2020		6,226	3,516	2,124	3	0	582	1
2021		6,136	3,472	2,217	2	0	442	3
2022		7,945	4,670	2,665	2	0	608	0
2023		7,495	4,309	2,572	3	—	610	1
2024		6,251	3,541	2,397	3	0	308	1
2023 -	1	650	364	185	—	—	101	—
	2	309	238	15	—	—	55	—
	3	705	537	143	—	—	25	—
	4	514	271	233	—	—	10	—
	5	742	371	217	1	—	154	—
	6	791	596	195	0	—	—	—
	7	578	290	238	—	—	51	—
	8	742	395	296	—	—	50	0
	9	681	384	239	0	—	58	—
	10	599	346	226	1	—	25	0
	11	658	284	325	1	—	48	—
	12	526	233	260	—	—	33	0
2024 -	1	492	336	156	—	0	—	0
	2	438	208	178	—	—	52	—
	3	352	223	129	—	0	—	0
	4	557	308	230	—	—	19	—
	5	545	263	265	0	—	17	0
	6	351	159	168	2	0	21	—
	7	746	418	255	0	—	73	—
	8	507	279	202	—	—	25	—
	9	516	319	196	0	—	—	—
	10	488	270	198	—	—	20	—
	11	702	488	199	—	—	15	—
	12	557	269	221	0	—	66	—
2025 -	1	513	353	129	1	—	30	—

資料 : 財務省関税局

備考 : kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。

Source : The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks : Country volume may not add up the total volume due to round off.

(17) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入数量と単価
Raw Silk and Silk Yarn Imports in Major Countries

単位：俵, 円/kg
Unit: bale of 60kg, yen/kg

項 目 Item 年 月 Year & Month	輸入生糸（通関ベース） Raw Silk Imprt				輸入絹糸（通関ベース） Silk Yarn Import					
	中国 China		ブラジル Brazil		中国 China		ブラジル Brazil		ベトナム Vietnam	
	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price
暦 年 Calendar Year										
2015	5,520	6,803	879	8,199	7,928	6,908	531	9,261	5,586	7,283
2016	5,334	5,614	1,134	6,164	7,289	5,764	711	6,654	4,074	5,946
2017	5,946	6,574	1,451	6,517	8,431	6,762	862	7,381	5,256	6,627
2018	3,438	7,973	1,441	7,857	6,217	8,090	802	8,551	4,031	7,754
2019	3,569	6,561	1,215	7,067	6,658	6,426	757	7,703	3,489	6,782
2020	1,269	6,243	1,140	6,587	3,516	6,415	582	7,441	2,124	6,627
2021	1,852	7,096	1,183	6,390	3,472	7,177	442	7,154	2,217	6,676
2022	2,358	8,878	1,222	9,124	4,670	9,496	608	10,387	2,665	9,557
2023	1,828	9,499	986	10,302	4,309	9,874	610	11,679	2,572	9,946
2024	1,838	10,638	844	12,045	3,541	11,286	308	13,976	2,397	11,209
2023 - 1	107	8,577	154	9,724	364	9,238	101	10,705	185	9,185
2	111	9,322	68	9,899	238	9,001	55	11,256	15	11,271
3	248	9,059	40	9,667	537	9,450	25	11,647	143	9,058
4	—	—	—	—	271	9,490	10	11,069	233	9,072
5	231	9,266	229	9,864	371	9,510	154	11,338	217	9,411
6	170	9,259	—	—	596	9,872	—	—	195	10,033
7	120	9,362	87	10,617	290	10,258	51	12,109	238	10,330
8	254	9,413	87	10,314	395	10,133	50	11,964	296	9,986
9	122	10,059	66	10,956	384	10,128	58	12,519	239	10,370
10	158	10,118	55	10,388	346	10,522	25	12,029	226	9,878
11	242	10,088	111	11,326	284	10,528	48	12,767	325	10,411
12	65	10,296	89	10,893	233	10,672	33	12,782	260	10,753
2024 - 1	232	10,147	—	—	336	10,230	—	—	156	10,613
2	116	10,188	161	11,358	208	10,671	52	12,711	178	10,685
3	325	10,407	10	12,133	223	11,036	—	—	129	11,494
4	—	—	—	—	308	11,413	19	13,902	230	11,041
5	250	11,006	116	12,258	263	11,527	17	14,251	265	11,560
6	91	11,019	93	12,417	159	11,399	21	14,281	168	11,314
7	202	11,146	140	12,747	418	12,120	73	14,673	255	11,592
8	64	10,573	95	12,241	279	11,171	25	14,162	202	11,411
9	220	10,228	6	12,136	319	10,796	—	—	196	10,905
10	73	10,420	84	11,460	270	11,019	20	12,854	198	10,841
11	220	11,147	50	11,648	488	11,741	15	14,054	199	11,178
12	45	10,859	95	12,068	269	11,688	66	14,308	221	11,554
2025 - 1	158	11,287	43	12,428	353	12,138	30	14,260	129	11,970

資料：財務省 通関統計による、単価はC I F 価格である。

Source : The customs Bureau ,Ministry of Finance

Remarks : A unit price is CIF price.

(18) 絹織物生産数量

Production of Silk Fabrics

(単位 : 1,000㎡)
(Unit : 1,000sq. meters)

品 種 Type of Fabrics 年 月 Year & Month 暦 年 Calendar Year	総 数 Grand Total	絹・絹紡織物 Silk and Spun Silk Fabrics							
		広 巾 織 物 Double Width				小 巾 織 物 Single Width			その他の 後練(後染) Other Piece Dyed Silk Fabrics
		計 Total	羽二重類 Habutae	クレープ類 Crepe	先 練 (先染) Dyed Yarn	計 Total	ちりめん類 Silk crepe	先 練 (先染) Dyed Yarn	
2015	2,316	1,228	664	35	529	630	283	347	458
2016	2,243	1,191	620	38	533	603	266	337	449
2017	2,195	1,185	639	50	497	587	272	315	422
2018	2,113	1,151	619	45	487	578	272	306	384
2019	1,939	1,128	583	43	502	521	242	279	290
2020	1,214	697	460	15	222	364	169	195	153
2021	1,319	840	587	9	244	336	128	208	143
2022	1,444	1,016	716	0	300	280	72	208	148
2023	1,242	817	548	0	269	288	82	206	136
2023 - 1	106	75	52	0	23	23	7	16	8
2	99	65	45	0	20	23	6	17	12
3	104	63	48	0	15	25	7	18	16
4	112	73	54	0	19	25	7	18	14
5	113	77	48	0	29	24	7	17	12
6	110	72	47	0	25	25	7	18	12
7	100	63	45	0	18	25	8	17	11
8	101	68	44	0	24	23	7	16	10
9	93	59	41	0	18	23	6	17	10
10	102	68	42	0	26	25	7	18	9
11	107	73	42	0	31	24	7	17	10
12	95	61	40	0	21	23	7	16	10
2024 - 1	94	58	44	0	14	26	10	16	9
2	96	56	40	0	16	27	11	16	12
3	93	56	44	0	12	28	11	17	10
4	93	54	42	0	12	29	12	17	10
5	103	66	36	0	30	28	11	17	9
6	92	54	34	0	20	28	11	17	9
7	95	52	35	0	17	29	12	17	13
8	71	40	30	0	10	23	8	15	7
9	84	46	32	0	14	28	11	17	10
10	95	61	36	0	25	28	11	17	7
11	101	68	36	0	32	25	9	16	7
12	94	61	35	0	26	24	9	15	8
2025 - 1	88	57	43	0	14	23	8	15	7

資料 : (一社) 日本絹人織織物工業会(～2020.6) 経済産業省生産動態統計(2020.8～)

備考 : 1. 絹紡と交織を含む。単位以下四捨五入。

2. 2024年分までデータ補正がある。

Source : Japan Silk & Rayon Weaver's Association(～2020.6).

Ministry of Economy, Trade, and Industry, Current Production Statistics(2020.8～)

Remarks : 1. Spun and mixed fabrics included. Fractions of 0.5 and over counted as a whole number and the rest disregarded.

2. Data are corrected until 2024.

(19) 丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量

Production of Silk Fabrics in Tango , Nagahama and Nishijin

項目 Item 年月 Year & Month	絹織物生産数量 Silk Fabrics Production		丹 後 Tango (白生地) (White Fabrics)		長 浜 Nagahama (白生地) (White Fabrics)		西 陣 Nishijin (帯) (Sash)	
	数 量 Quantity (千㎡) (1,000㎡)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	推定出荷数量 Estimated Shipments (本)	前年(月)比 Ratio to previous year
暦 年 Calendar Year								
2015	2,316	84.7	351,309	87.8	41,893	78.8	526,417	87.6
2016	2,243	96.8	310,271	88.3	38,063	90.9	488,144	92.7
2017	2,195	97.9	294,451	94.9	36,227	95.2	477,594	97.8
2018	2,113	96.3	282,158	95.8	36,316	100.2	426,796	89.4
2019	1,939	91.8	253,429	89.8	27,584	76.0	380,224	89.1
2020	1,214	62.6	154,333	60.9	10,852	39.3	260,360	68.5
2021	1,319	108.6	153,627	99.5	12,321	113.5	303,511	116.6
2022	1,444	109.5	158,982	103.5	11,988	97.3	281,796	94.4
2023	1,242	86.0	147,196	92.6	11,657	97.2	254,378	90.4
2024			132,320	89.9	9,976	85.6	206,760	81.3
2023 - 1	106	102.1	9,451	90.9	1,011	102.8	24,615	110.5
2	99	80.0	12,892	101.1	836	85.1	19,786	93.6
3	104	83.6	11,963	96.7	901	104.4	24,475	97.5
4	112	88.8	13,330	89.2	878	79.0	23,422	89.2
5	113	91.9	11,894	106.1	1,197	106.2	22,043	100.1
6	110	75.9	13,523	92.3	952	77.0	23,807	89.1
7	100	82.4	13,194	90.7	1,121	112.6	18,686	83.9
8	101	90.4	8,952	75.0	855	91.1	16,250	76.8
9	93	89.2	14,213	101.6	684	80.9	20,410	81.2
10	102	86.5	12,354	82.7	989	89.2	19,502	83.2
11	107	88.1	12,399	90.3	1,030	107.2	20,270	83.5
12	95	78.5	13,030	96.4	1,203	144.1	19,688	90.7
2024 - 1	94	88.3	8,032	85.0	885	87.5	14,648	61.1
2	96	96.8	13,377	103.8	1,043	124.8	17,070	86.2
3	93	89.4	11,675	97.6	999	110.9	18,682	73.4
4	93	83.0	12,093	90.7	997	113.6	20,584	86.9
5	103	91.2	10,096	84.9	722	60.3	21,751	99.9
6	92	83.6	13,031	96.4	702	73.7	16,369	68.4
7	95	95.0	10,794	81.8	876	78.1	15,860	84.9
8	71	70.3	8,492	94.9	546	63.9	13,324	82.0
9	84	90.3	12,063	84.9	921	134.6	17,628	90.6
10	95	93.1	9,186	74.4	921	93.1	17,386	86.1
11	101	94.4	12,377	99.8	684	66.4	18,223	84.8
12	94	98.9	11,104	85.2	680	56.5	15,253	77.5
2025 - 1	88	93.6	6,913	86.1	680	76.8	14,152	96.9
2			11,714	87.6	702	67.3		

資料 : 絹織物生産数量は(一社)日本絹人織織物工業会(～2020.6) 経済産業省生産動態統計 (2020.8～)

主要3産地の生産量、出荷数量は各産地組合の発表による。

備考 : 1. 西陣は京都府織布生産動態調査数値の修正により前年比が合わない場合がある。

2. 絹織物生産数量の数値は2024年分までデータ補正がある。

Source : Japan Silk & Rayon Weaver's Association(～2020.6).

Ministry of Economy, Trade, and Industry, Current Production Statistics(2020.8～)

The numbers of Production and Shipments of 3major producing areas are reported by their local unions.

Remarks : 1. Ratio to previous year in Nishijin may become incorrect if there is a correction in the statistical survey on the production dynamics of woven fabrics in Kyoto prefecture.

2. The figures of silk fabric production quantity are corrected until 2024.

蚕の一生



協力:シルク博物館

一般財団法人 大日本蚕糸会

— 資料・海外 —

(1)世界主要国の家蚕繭生産数量

Domesticated Silkworm Cocoon Production in Major Countries

区 分		2018年	2019年	2020年
		トン	トン	トン
日本	Japan	110	92	80
中国	China	352,942	201,572	156,690
インド	India	185,560	185,143	169,345
ウズベキスタン	Uzbekistan	17,912	21,374	20,942
イラン	Iran	589	1,407	1,756
タイ	Thailand	4,858	5,011	3,715
ブラジル	Brazil	3,055	3,047	2,742
ベトナム	Vietnam	8,145	11,855	14,937
北朝鮮	North Korea	2,500	2,643	2,643
トルコ	Turkey	94	90	90
ブルガリア	Bulgaria	—	—	—
インドネシア	Indonesia	18	18	18
シリア	Syria	—	1	1
主要国の計	Total	575,783	432,253	372,959

区 分		2021年	2022年	2023年
		トン	トン	トン
日本	Japan	61	51	45
中国	China	136,964	146,560	146,867
インド	India	187,241	199,752	215,642
ウズベキスタン	Uzbekistan	22,770	24,300	25,886
イラン	Iran	1,653	1,798	1,840
タイ	Thailand	3,593	3,107	3,095
ブラジル	Brazil	2,211	1,807	1,715
ベトナム	Vietnam	16,444	16,824	17,727
北朝鮮	North Korea	2,643	2,643	1,919
トルコ	Turkey	76	69	78
ブルガリア	Bulgaria	—	—	—
インドネシア	Indonesia	21	21	17
シリア	Syria	2	1	1
主要国の計	Total	373,679	396,933	414,832

注: 日本は(一財)大日本蚕糸会、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド繊維省中央蚕糸局(CSB)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国はFAOの統計値を使用。(2025年3月時点)

Note: Figures of China are based on the data of the China Silk Association. Figures of japan are based on the data of the The Dainippon Silk Foundation, Ministry of Textiles in The Dainippon Silk Foundation. Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India. Others than these countries, based on the data of International Sericulture. (As of March 2025)

(2)世界主要国の家蚕生糸生産数量

Domesticated Raw Silk Production in Major Countries

区 分		2018年		2019年		2020年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	21	339	16	269	12	203
中国	China	120,000	2,000,000	68,600	1,143,333	53,359	889,317
インド	India	25,344	422,400	25,239	420,650	23,896	398,267
ウズベキスタン	Uzbekistan	1,800	30,000	2,037	33,950	2,037	33,950
タイ	Thailand	680	11,333	700	11,667	520	8,667
ブラジル	Brazil	650	10,833	469	7,817	377	6,283
ベトナム	Vietnam	680	11,333	795	13,250	969	16,150
イラン	Iran	110	1,833	227	3,783	270	4,500
北朝鮮	North Korea	350	5,833	370	6,167	370	6,167
トルコ	Turkey	30	500	5	83	5	83
インドネシア	Indonesia	3	50	3	50	3	50
ブルガリア	Bulgaria	10	167	10	167	10	167
シリア	Syria	0	0	1	17	1	17
主要国の計	Total	149,678	2,494,622	98,472	1,641,202	81,829	1,363,820

区 分		2021年		2022年		2023年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	10	160	10	168	9	154
中国	China	46,700	778,333	50,000	833,333	50,000	833,333
インド	India	25,818	430,300	27,654	460,900	29,892	498,200
ウズベキスタン	Uzbekistan	2,037	33,950	2,037	33,950	2,037	33,950
タイ	Thailand	503	8,383	435	7,250	291	4,850
ブラジル	Brazil	373	6,217	300	5,000	330	5,500
ベトナム	Vietnam	1,067	17,783	1,236	20,600	1,448	24,133
イラン	Iran	272	4,533	275	4,583	276	4,600
北朝鮮	North Korea	370	6,167	370	6,167	370	6,167
トルコ	Turkey	5	83	5	83	5	83
インドネシア	Indonesia	3	50	3	50	3	50
ブルガリア	Bulgaria	9	150	7	117	7	117
シリア	Syria	1	17	1	17	1	17
主要国の計	Total	77,168	1,286,127	82,333	1,372,218	84,669	1,411,154

注1: 日本は(一財)大日本蚕糸会、インドはインド繊維省中央蚕糸局(CSB)の統計値をそれぞれ使用、
それ以外の国は国際養蚕委員会(ISC)の統計値を使用した。(2025年3月時点)

Note1: Figures of Japan are based on the data of the Dainippon Silk Foundation.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB),Ministry ofTextiles in India.

Others than these countries,based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

(As of March 2025)

(3) 中国繭絲綢交易市場における各種シルク現物価格

Spot Price of Various Silk Goods

2024年11月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)	3A-4A	131.75 ~ 163.50	2,767 ~ 3,434
2	乾繭(dried cocoon)	5A-6A	163.00 ~ 188.75	3,423 ~ 3,964
3	玉繭(double cocoon)		103.00 ~ 131.75	2,163 ~ 2,767
4	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	113.00 ~ 159.50	2,373 ~ 3,350
5	生糸(raw silk)	21d、国内販売	474.00 ~ 525.50	9,954 ~ 11,036
6	生糸(raw silk)	21d、輸出販売	480.25 ~ 535.50	10,085 ~ 11,246
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	464.50 ~ 490.25	9,755 ~ 10,295
8	玉糸(doupion silk)	110d	453.25 ~ 467.00	9,518 ~ 9,807
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
9	羽二重(habutae)	56吋(inch)8匁(mom)	41.00 ~ 46.50	861 ~ 977
10	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	61.50 ~ 71.00	1,292 ~ 1,491
11	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	52.00 ~ 57.00	1,092 ~ 1,197
12	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	45.00 ~ 50.00	945 ~ 1,050

注:1元=21円

1 CNY=21JPY

2024年12月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)	3A-4A	130.00 ~ 162.00	2,730 ~ 3,402
2	乾繭(dried cocoon)	5A-6A	162.00 ~ 187.00	3,402 ~ 3,927
3	玉繭(double cocoon)		98.00 ~ 125.00	2,058 ~ 2,625
4	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	104.00 ~ 155.00	2,184 ~ 3,255
5	生糸(raw silk)	21d、国内販売	472.25 ~ 524.75	9,917 ~ 11,020
6	生糸(raw silk)	21d、輸出販売	477.50 ~ 534.75	10,028 ~ 11,230
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	463.00 ~ 488.50	9,723 ~ 10,259
8	玉糸(doupion silk)	110d	452.75 ~ 466.75	9,508 ~ 9,802
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
9	羽二重(habutae)	56吋(inch)8匁(mom)	40.50 ~ 46.00	851 ~ 966
10	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	61.50 ~ 71.00	1,292 ~ 1,491
11	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	52.00 ~ 57.00	1,092 ~ 1,197
12	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	45.00 ~ 50.00	945 ~ 1,050

注:1元=21円

1 CNY=21JPY

資料:中国繭絲綢交易市場(浙江省、嘉興)発表

2025年1月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)	3A-4A	130.00 ~ 162.00	2,730 ~ 3,402
2	乾繭(dried cocoon)	5A-6A	162.00 ~ 187.00	3,402 ~ 3,927
3	玉繭(double cocoon)		98.00 ~ 125.00	2,058 ~ 2,625
4	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	105.00 ~ 155.00	2,205 ~ 3,255
5	生糸(raw silk)	21d、国内販売	466.80 ~ 522.00	9,803 ~ 10,962
6	生糸(raw silk)	21d、輸出販売	472.80 ~ 531.20	9,929 ~ 11,155
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	459.20 ~ 486.20	9,643 ~ 10,210
8	玉糸(doupion silk)	110d	451.60 ~ 466.00	9,484 ~ 9,786
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
9	羽二重(habutae)	56吋(inch)8匁(mom)	40.50 ~ 46.00	851 ~ 966
10	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	61.50 ~ 71.00	1,292 ~ 1,491
11	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	52.00 ~ 57.00	1,092 ~ 1,197
12	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	44.84 ~ 50.00	942 ~ 1,050

注:1元=21円

1 CNY=21 JPY

2025年2月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)	3A-4A	129.00 ~ 160.25	2,709 ~ 3,365
2	乾繭(dried cocoon)	5A-6A	157.25 ~ 185.25	3,302 ~ 3,890
3	玉繭(double cocoon)		98.00 ~ 125.00	2,058 ~ 2,625
4	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	106.00 ~ 155.00	2,226 ~ 3,255
5	生糸(raw silk)	21d、国内販売	457.00 ~ 517.75	9,597 ~ 10,873
6	生糸(raw silk)	21d、輸出販売	463.75 ~ 527.00	9,739 ~ 11,067
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	456.00 ~ 484.25	9,576 ~ 10,169
8	玉糸(doupion silk)	110d	451.00 ~ 466.00	9,471 ~ 9,786
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
9	羽二重(habutae)	56吋(inch)8匁(mom)	40.28 ~ 46.00	846 ~ 966
10	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	61.13 ~ 71.00	1,284 ~ 1,491
11	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	51.85 ~ 57.00	1,089 ~ 1,197
12	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	44.65 ~ 50.00	938 ~ 1,050

注:1元=21円

1 CNY=21 JPY

※「シルクレポート」の記事と統計データは、下記のホームページでもご覧になれます。

<https://silk.or.jp>

シルクレポート 2025 年 4 月号 No.85 令和 7 年 4 月 1 日発行

編集 / 発行

一般財団法人大日本蚕糸会

〒100-0006 東京都千代田区有楽町 1-9-4 蚕糸会館 6 階

TEL : 03-3214-3500

FAX : 03-3214-3415

URL : <https://silk.or.jp>

製本 / 印刷

株式会社正大印刷社

無断転載禁ず